



# Web Fairy Paradise

改訂版 11/25 PM17:45

**第65号**

## 今月のフェアリー詰将棋

- ・ 第 57 回 WFP フェアリー作品展 (再掲)
- ・ 第 58 回 WFP フェアリー作品展
- ・ 第 72 回 推理将棋出題
- ・ 第 73 回 推理将棋出題

## 結果発表

- ・ 第 56 回 WFP フェアリー作品展
- ・ 第 71 回 推理将棋出題
- ・ Fairy of the Forest #37 解答
- ・ 王手が9割結果 (一乗谷酔象)

## 読み物

- ・ なし



**2013/11**



### 第 30 回全日本シニアバドミントン選手権大会

上記の大会が今月の16日～18日に松山市で開催されました。この大会は30歳以上で5才刻みでランク分けし、男女別のダブルス、シングルス、混合ダブルスで競う全国大会です。各県予選を勝ち抜いてきた精鋭でなおかつ千人を超える参加者ということで会場も8つに別れて行われました。私も選手として参加(50代ダブルス)で1回戦は勝ち上がりましたが、2回戦で痛い逆転負け。21点取れば勝ちなのですが20-14とリードしていたところからの逆転負け。ラリーポイントなのにそこから1点も取れないとは・・・結局二日目からはスタッフとして主審を12試合くらいこなしました。朝6時に家を出て帰ったら22時。もうへとへと。詰将棋が趣味ならバドミントンは仕事そんな感じですかね。写真はこの大会に招待されたバドミントン界の英雄・ハルトノ氏と大学時代バドミントン部だった現愛媛県知事の中村氏(愛媛県バドミントン協会の会長でもあります)の組んだエキビジョンマッチの様です。50歳以上のプレーヤーでないと分からないかもしれませんが凄い人です。など書いてはいますが、この日は私は仕事で欠席。見る事が出来ませんでした。これは残念でした。

さて大きなイベントも終わりましたので、少しは詰将棋にも時間が取れると思っていますが、仕事もやや多忙を極めておりしばらくはぎりぎりの状況が続くそうです。

来月は個人作品展の開催を予定していますが、まだ投稿は0。私の「強欲協力詰作品展」は開催しますがそれだけでは寂しい限りですので皆さんのご参加よろしくお願ひいたす次第です。

## 【募集】

### 作品

フェアリー作品、PG、推理将棋はそれぞれの投稿先へ投稿下さい。

### 読み物

フェアリー詰将棋に関するものに限らず日常のことも研究物でも4コマ漫画からパロディ、イラスト、マイベスト10、自己紹介、何でもOKです。

### 感想

第65号の感想、今後の要望、ご意見等なんでも結構です。是非メールにて私まで

皆様の反応が私の意欲に成りますので是非ご協力をお願いします。

読み物、感想の投稿はこちらまで

たくぼん：[takuji@dokidoki.ne.jp](mailto:takuji@dokidoki.ne.jp)

---

### 協力いただいている方々のHPアドレス

\*ご協力感謝します

#### 妖精都市

<http://www.geocities.jp/cavesfairy/>

#### 詰将棋メモ

<http://toybox.tea-nifty.com/>

#### 詰将棋おもちゃ箱

<http://www.ne.jp/asahi/tetsu/toybox/>

#### Onsite Fairy Mate

<http://www.abz.jp/~k7ro/>

#### K.Komine's Home Page

<http://19900504.web.fc2.com/index.html>

#### イラスト・素材提供：幻想素材サイト First Moon

<http://www.first-moon.com/>

\*表紙のイラストを使用させて頂いております。

## 第57回WFP作品展(再掲)

### 第58回WFP作品展出題 担当：神無七郎

今月は第57回出題の再掲載と、第58回の新規出題です。来月は「神無一族の氾濫」の担当と重なるため、WFP作品展の12月号の新規出題と来年1月号の結果稿はお休みさせていただきます。そのため、第58回の結果発表及び第59回の新規出題は年明けとなります。あらかじめご了承ください。

#### 〔第57回作品展各題への補足説明〕(再掲)

第57回出題も出題作品は多種多様。珍しいルールやまだ馴染みの薄い条件を伴った作品が含まれますので、以下の説明を読んで解図に挑んでください。

**57-1～57-3**は小林看空氏による協力詰3手詰特集。奇妙奇天烈なルールや難問に辟易されている方々にとっては一服の清涼剤ですね。**57-2**はツインなので両方を解いて戴くのが望ましいですが、片方だけの解答でも受け付けます。

**57-4、57-5**は積極的に未開拓のルールに挑む変寝夢氏による「ネコネコ鮮」ルールの作品です。「ネコネコ鮮」は「敵味方を問わず、駒が縦に繋がっているとき、上からn番目の駒は下からn番目の駒の性能になる」という過激なルールです。対面系・安南系のルールを合成して、更に拡張した感じですね。歴史は意外と古く、公式発表は1988年に遡ります。

#### 〔参考図〕ネコネコ鮮の作品

クトゥルフ(詰将棋パラダイス 1988年1月)

ネコネコ鮮協力白玉詰4手

9 8 7 6 5 4 3 2 1

									一
									二
						王			三
									四
									五
									六
									七
									八
									九

持駒 角

#### 【解答】

66角 65香 67王 55桂 まで4手

(詰上り)

									一
									二
						王			三
									四
									五
						角			六
						王			七
									八
									九

持駒 なし

初手は普通の王手ですが、2手目65香がルールの特徴を活かした対面ルールのような受け。これで角と香の利きが入れ替わっています。角の利きを消すだけなら香以外の駒でも良さそうですが、香でなければならない理由は最終手で判明します。更に3手目67王がネコネコ鮮独特の王手。縦に並んだ駒が奇数枚になったので、中央の駒が本来の性能（この場合は角）に戻ったのです。そして最終手は逆王手の55桂。これを同角と取ると65香が白玉に王手を掛けています。同角を防ぐだけなら65飛でも同じように見えますが、それでは白玉が飛の性能になっているので、詰んでいません。本局で示されるように、詰める対象を利きの弱い駒に変身させるのがこの種のルールのセオリーです。

このルールに関しては、WFP43号に「ネコネコ鮮の紹介」と題した小林看空氏の記事がありますので、ぜひご一読を。**57-5**はG(グラスホッパー)も使われていて、一層ややこしく感じるかもしれませんが、受方持駒の制限もありますし、詰上りにヤマを張れば意外と簡単に解けるかもしれませんよ。

**57-6**は第56回でも登場した「中立駒」の作品。「中立駒」に慣れていないと難しそうに思えるかもしれませんが、この作品も受方持駒の制限があるので、意外と読みやすいと思います。

**57-7**は上谷氏が研究を進めている複合マドラシの作品。今回は「安南マドラシ」です。性能変化を伴うルールの組み合わせなので、その適用順序が問題ですが、このルールでは名称通り「安南」→「マドラシ」の順に性能変化を適用してください。これが逆になると作意は成立しません。本局最大の謎は「打歩ルールなのに

歩の合駒を出せそうな駒がない!？」ということですが、皆さんもぜひこの謎に挑戦してください。なお、「安南」には「行き所のない駒」がないので、「安南マドラシ」にも「行き所のない駒」はありません。

**57-8** はキルケを得意とする橘氏が本格的に PWC に進出したことを示す作品。PWC は桂香歩を除いて基本的に駒が消えないルールですが、どうすればスタイルメイトにできるのか? ぜひこの謎解きに挑戦してください。

**57-9** も橘氏の作品ですが、どこかで見た気がしませんか? 実はこれ WFP63 号に掲載された「上田吉一氏作品展」の 2 からヒントを得た作品なのです。その辺りの楽屋話は結果稿のお楽しみとして、まずは馬と桂の織り成す摩訶不思議な手順を解き明かしてください。

**57-10** は WFP63 号で本誌に初登場された上田吉一氏の作品です。上田氏は日本の詰将棋に PWC を導入した先駆者ですが、最近では **Problem Paradise** 誌でも PWC の長編作品を発表されており、PWC ブーム再来の火付け役になるかもしれません。いずれにしても、上田氏の楽しい趣向作を本誌でも解図・鑑賞できるようになったのは嬉しいですね。

**57-11** と **57-12** は共に一乗谷酔象氏の長編推理将棋。今度は「連続王手」で「連続駒取り」からの「連続駒打ち」という派手な手順が主題です。**57-11** の 16 回連続も充分派手ですが、**57-12** はその上を行く 17 回連続という驚くべき回数です。皆さんも作者と共に、「連続王手で連続駒取り」の限界に挑んでください。

### 〔第 58 回作品展各題への補足説明〕

第 58 回の出題は全 11 題。半期末で解答締切が通常より長めですので、その時間を有効に活用して解答をお寄せください。今回も色とりどりの作品が並んでいます。**58-5**、**58-8**、**58-10** には受方持駒制限があるのでご注意ください。

**58-1**、**58-2** は上谷直希氏による複合マドラシ作品。第 57 回に続いての登場なので、解答者の皆さんも少し慣れてきた…わけないですよ。手数は短いですが、結構手ごわいと思います。

**58-3** も上谷直希氏の作品ですが、詰めるのは普通の玉ではなく、クイーンのパワーを持った玉です。特筆すべきは「打歩詰可」のルール設定。打歩詰のルールは「なぜ打歩で詰めたらだめなの? 理不尽だ!」と最初は誰しもが感じると思うのですが、ここはフェアリーの世界です。打

歩で詰めても良い詰将棋をどんどん作ってどんどん発表しましょう。

**58-4** は「安北 2」という初めて登場するルール。作者は新しいルールに意欲的に挑戦している変寝夢氏です。「安北」が 1 つ前の枡にいる味方の駒の利きになるのに対し、「安北 2」は 2 つ前の枡にいる味方の駒の利きになります。「安 X」系のルールは行き所のない駒の定義に注意が必要ですが、「安北 2」では通常の「一段目の桂香歩及び二段目の桂は禁止」となります。

なお、ルールの表記は作者の提示した「安北 2」をそのまま採用しています。「安北北」としても良さそうですが、それだと「1 つ前と 2 つ前の枡にいる味方の駒の利きの合成になる」という解釈をされそうなので、元の表記の方が良いと判断しました。

**58-5** は変寝夢氏による縦シリンダー盤を使った作品。今度は縦シリンダーの上で、ナイトライダーを走らせます。ただでさえ強力なナイトライダーが縦シリンダー盤では、どうなるか。利きの確認が大変かもしれませんが、その目でお確かめください。

**58-6** も変寝夢氏の作品。PWC とナイトの組み合わせです。PWC は基本的に盤上から駒が消えないルールですし、この使用駒だと駒が増えることもありません。盤上の駒をうまくやり繰りしてスタイルメイトの形を作ってください。

**58-7** と **58-8** は橘氏お得意のキルケ作品。**58-7** はいかにも大技が出そうな配置と持駒で、解く前から期待が膨らみますね。**58-8** は 2 つの解があるので、できるだけ両方の解を求めてください。たぶん一つの解は楽に見つかると思います。

**58-9** と **58-10** は上田吉一氏の中編 PWC 作品。上田氏らしい論理性と趣向性の融合した手順が味わえると思いますので、お見逃しなく。

**58-11** は本作品展では初登場となる幻想咲花氏の「透明駒」を使った作品です。「覆面駒」は駒の種類が分からないだけでしたが、「透明駒」は「覆面駒」より過激で、位置すらも分からない状態で手を進めることとなります。幸い、このルールについての詳しい説明や例題が今月の詰パラの「透明人間の逆襲」という記事にまとめられていますので、まずはこれを読んでルールを把握してください。

---

### 解答要項

解答締切:

第 57 回: 2013 年 12 月 15 日 (日)



第 58 回 : 2014 年 2 月 15 日 (土)

宛先 : janacek789@ybb.ne.jp (メールの件名に「解答」の語句を入れてください。)

### 作品投稿について

作品投稿は随時受け付けます。(原則として毎月 15 日の投稿まで当月号に掲載します。)宛先は解答と同じ janacek789@ybb.ne.jp へ。メールの件名に「作品投稿」の語句を入れてください。添付ファイルも可。f m 検討済みなら.fmo 形式のファイル添付を推奨します。

### WFP 作品展 : 年末年始の予定

来年 1 月は「氾濫」結果稿の作成と重なるため、WFP 作品展の 12 月号の新規出題と来年 1 月号の結果稿はお休みさせていただきます。

今後の予定は以下のようになっていますので、あらかじめご承知ください。

	11 月	12 月	1 月	2 月
第 57 回	再掲	結果		
第 58 回	出題	再掲	再掲	結果
第 59 回			出題	再掲
第 60 回				出題

### ルール説明

#### 【協力詰】

先後協力して最短手数で受方の玉を詰める。

#### 【ネコネコ鮮】

敵味方を問わず、駒が縦に繋がっているとき、上から n 番目の駒は下から n 番目の駒の性能になる。

(補足)

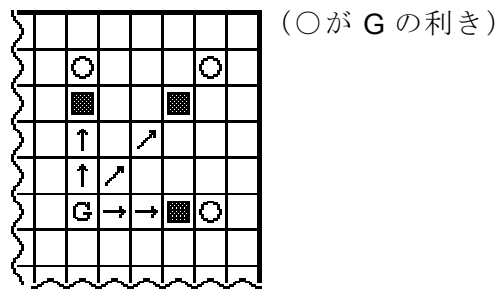
- ・並ぶ駒の枚数が奇数枚のとき中央の駒は本来の利きになる
- ・行き所のない駒の概念はなし

#### 【グラスホッパー】(G)

フェアリーチェスの駒。クイーンの線上で、ある駒を 1 つ飛び越したその直後の地点に着地する。そこに敵の駒があれば取れる。

(補足)

- ・飛び越える駒は敵味方どちらでもよい。
- ・パオと違って飛び越さないと動けない。動ける場所も飛び越えた駒の隣だけ。
- ・成ることはできない。特に記述しない限り受方の持駒に G はない。
- ・2 つ以上の駒は飛び越せない。



(○が G の利き)

#### 【中立駒】(「♁」あるいは「n 駒」)

どちらの手番でも動かせる駒。横向きの字か横に n を付加して表記。→詳細は WFP61 号の「中立駒の紹介」の記事を参照してください。

#### 【安南】

味方の駒が縦に並ぶと、上の駒の利きは下の駒の利きになる

#### 【マドラシ】

同種の敵駒の利きに入ると、利きがなくなる。

#### 【安南マドラシ】

安南とマドラシを両方適用する。利きの変化は「安南」が先、次に「マドラシ」の順。

(補足)

- ・安南も安南マドラシも行き所のない駒の概念はなし

#### 【打歩】

打歩詰以外の詰手を禁手とする。

#### 【PWC】

取られた駒は取った駒が元あった場所に復元する。(駒位置の交換となる)

(補足)

- ・位置交換をすると「行き所のない駒」や「二歩」になる場合は普通に取られて相手の持駒になる

#### 【協力自玉スタイルメイト】

先後協力して最短手数で攻方をスタイルメイト(玉手は掛かっていないが合法手のない状態)にする。

#### 【協力自玉詰】

先後協力して最短手数で攻方の玉を詰める。

#### 【推理将棋】

将棋についての会話をヒントに将棋の指し手を復元する。

#### 【クイーン王】

玉がクイーン(飛と角を合わせた性能)の利きを持つ。

#### 【打歩詰可】

打歩詰で詰ませても良い。

#### 【安北 2】

2 枞前に味方の駒があるとその利きになる。  
(補足)

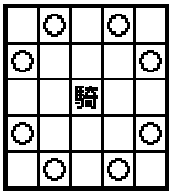
・行き所のない駒の概念は通常通り

【縦シリンダー盤】

一段目と九段目の同じ筋同士が繋がった盤。

【ナイト】(騎)

ナイトはチェスの駒。八方桂。

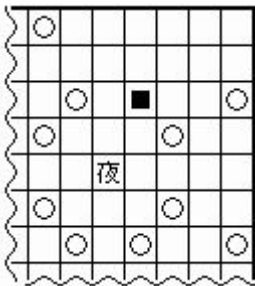


(○が騎の利き)

【ナイトライダー】

フェアリーチェスのナイトライダー (夜)。

ナイトの利きの方向に連続飛びができる。



(○がナイトライダーの利き。■に駒があるとそこから先には利かない。)

【キルケ】

駒取りがあったとき取られた駒が、最も近い将棋での指し始め位置に戻される

【協力千日手】

先後協力して最短手数で初形に戻す。

【透明駒】

位置・種類が不明の駒。

着手の合法性、攻方王手義務を満たせる可能性があれば、それを満たしているものとして手順を進めることができる。

→詳細は詰将棋パラダイス 2013 年 11 月号の「透明人間の逆襲」を参照してください。

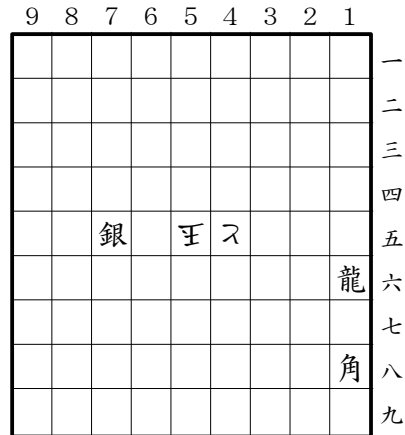


《第 57 回 WFP 作品展》(再掲)

解答締切：2013 年 12 月 15 日 (日)

■ 57-1 小林看空氏作

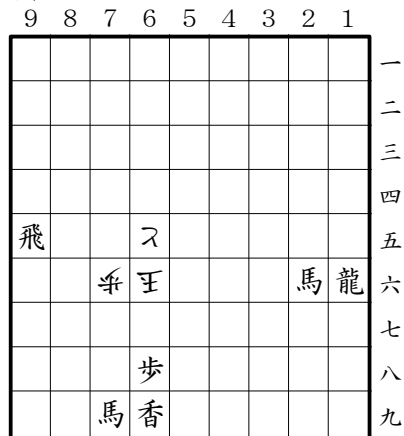
協力詰 3 手



持駒 銀

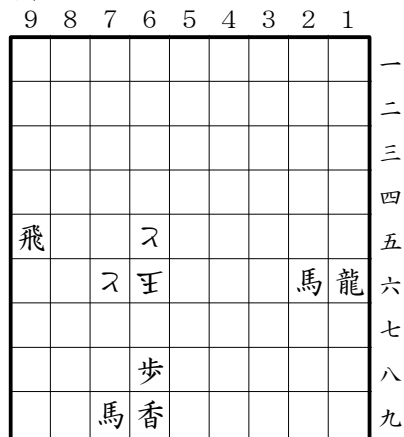
■ 57-2 小林看空氏作

a) 協力詰 3 手



持駒 なし

b) 協力詰 3 手



持駒 なし

■ 57-3 小林看空氏作

協力詰 3手

9	8	7	6	5	4	3	2	1
								一
								二
								三
								四
			ス					五
			王			馬	龍	六
								七
								八
								九
角	歩							

持駒 なし

■ 57-4 変寝夢氏作

ネコネコ鮮協力詰 5手

9	8	7	6	5	4	3	2	1
								一
								二
								三
								四
								五
								六
								七
						王	金	八
								九
								飛

攻方持駒なし

受方持駒角2 桂

■ 57-5 変寝夢氏作

ネコネコ鮮協力詰 5手

9	8	7	6	5	4	3	2	1
								一
								二
								三
								四
								五
								六
								七
								八
								九

攻方持駒G2

受方持駒銀2

(※G = グラスホッパー)

■ 57-6 変寝夢氏作

協力詰 5手

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
								王	一
									二
									三
								香	四
								銀	五
								炮	六
									七
									八
									九

攻方持駒n桂

受方持駒なし

(※16 香と持駒の桂は中立駒)

■ 57-7 上谷直希氏作

安南マドラシ打歩協力詰 13手

9	8	7	6	5	4	3	2	1
								一
								二
								三
								四
								五
								六
								七
								八
								九

持駒 銀 桂

■ 57-8 橘圭伍氏作

PWC協力自玉スタイルメイト 8手

9	8	7	6	5	4	3	2	1
								一
								二
								三
								四
								五
								六
								七
								八
								九

持駒 飛

■ 57-9 橘圭伍氏作

PWC協力自玉詰 142手  
9 8 7 6 5 4 3 2 1

								科	一
								科	二
								科	三
									四
									五
香	馬								六
王	王								七
					銀				八
			歩						九

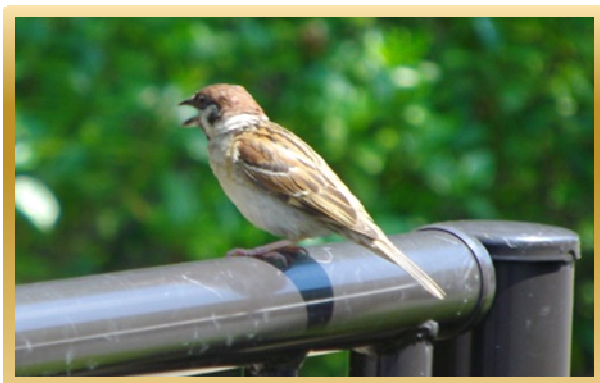
攻方持駒なし  
受方持駒なし

■ 57-10 上田吉一氏作

PWC協力自玉詰 102手  
9 8 7 6 5 4 3 2 1

									一
爵									二
									三
									四
								金	五
								角	六
					王			歩	七
				銀				王	八
					飛				九

攻方持駒なし  
受方持駒なし



■ 57-11 一乗谷酔象氏作

推理将棋『人生いろいろ』

「完敗だ。駒をぼろぼろ取られて 66 手で負かされたよ。途中、大駒を 2 枚取られたとき先手陣には未だ小駒が 5 種類残っているから勝負はこれからと思ったんだけど・・・」

「何枚ぐらい駒を取られたの？」

「連続王手で 16 枚も取られたよ。16 回目の王手では初手に動かした駒を取られた。このとき玉は 5 段目にいたんだけど、王手に対する応手は 5 筋の手だった」

「そんなに駒を取られて未だ投げずに粘ったのかい？」

「そうなんだ。でも取る駒がなくなった後、今度は 16 回続けて駒を打つ連続王手をかけられた。金を続けて打たれたし、銀頭に駒を打たれた手が 3 回もあった。最後は詰まされたよ」

「それは残念。いくら打たれ強い君でも粘りきれなかったか。人生いろいろ、王手もいろいろあるね」

さて、どんな将棋だったのでしょか？

条件

- 1) 66 手で詰み。
- 2) 後手は 16 回連続して駒を取りながら王手をかけた。
- 3) 後手は 16 回連続して駒を打って王手をかけた。
- 4) 後手が 2 枚目の大駒を取ったとき、先手陣には 5 種類の小駒が残っていた。
- 5) 16 回目の王手は、初手に先手が動かした駒を取る手だった。そのとき、先手玉は 5 段目にいたが、王手に対する先手の応手は 5 筋の手だった。
- 6) 後手は金を続けて打った。
- 7) 後手は 3 回銀頭に駒を打った。



■ 57-12 一乗谷酔象氏作

推理将棋『明日があるさ』

「駒をぼろぼろ取られた後ぺたぺた打たれて  
70手で負かされたよ」  
「何枚ぐらい駒を取られたの？」  
「連続王手で17枚も取られたよ」  
「そんなに駒を取られて未だ投げずに粘ったの  
かい？」  
「そうなんだ。でも、取る駒がなくなった後、  
今度は17回続けて駒を打つ連続王手をかけ  
られたんだ。初手の着手地点に飛車を打たれ  
る手もあった。最後詰まされたとき一つの筋  
には駒が8枚もあった」  
「残念な一局だったね。でも、駒柱詰を免れた  
のがせめてもの救いだ。明日があるさ」

さて、どんな将棋だったのでしょか？

条件

- 1) 70手で詰んだ。
- 2) 後手は17回連続して駒を取りながら王手をかけた後、17回連続して駒を打って王手をかけた。
- 3) 終図では一つの筋に駒が8枚あった。
- 4) 初手の着手地点に飛車を打った。



《第58回WFP作品展》

解答締切：2014年2月15日（土）

■ 58-1 上谷直希氏作

安南マドラシ協力詰5手

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									一
									二
									三
							金	ス	四
								王	五
				飛					六
									七
									八
									九

持駒 飛 銀

■ 58-2 上谷直希氏作

安南マドラシ協力詰7手

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									一
									二
									三
									四
						王			五
									六
									七
						角			八
									九

持駒 金

■ 58-3 上谷直希氏作

クイーン王協力詰13手 ※打歩詰可

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
						王			一
								と	二
						と			三
									四
									五
									六
									七
									八
									九

持駒 歩3

■ 58-4 変寝夢氏作

安北2打歩協力詰5手

9 8 7 6 5 4 3 2 1

									一
									二
						飛			三
				銀					四
		ス	王						五
			龍		馬				六
									七
									八
									九

持駒 歩

■ 58-5 変寝夢氏作

縦シリンダー盤協力詰3手

9 8 7 6 5 4 3 2 1

							夜		一
									二
									三
									四
王									五
									六
									七
									八
			夜						九

攻方持駒なし

受方持駒なし

(※夜=ナイトライダー)

■ 58-6 変寝夢氏作

PWC協力自玉スタイルメイト14手

9 8 7 6 5 4 3 2 1

									一
									二
									三
									四
									五
									六
			王	龍					七
				騎					八
王									九

持駒 なし

(※騎=ナイト)

■ 58-7 橘圭伍氏作

キルケ協力自玉詰10手

9 8 7 6 5 4 3 2 1

王									一
龍		金						香	二
		金							三
		桂	桂						四
									五
									六
									七
									八
									九

持駒 飛 香

■ 58-8 橘圭伍氏作

キルケ協力自玉スタイルメイト16手 ※2解

9 8 7 6 5 4 3 2 1

							龍	王	一
								歩	二
									三
									四
									五
									六
							王		七
							飛	ス	八
									九

攻方持駒 香4

受方持駒 なし

■ 58-9 上田吉一氏作

PWC協力千日手20手

9 8 7 6 5 4 3 2 1

								王	一
								歩	二
								角	三
									四
									五
									六
									七
									八
									九

持駒 香

■ 58-10 上田吉一氏作

PWC協力自玉スタイルメイト 36手

9 8 7 6 5 4 3 2 1

		王		銀					一
									二
									三
		銀							四
		香	香	香	香				五
									六
									七
			駒	王					八
									九

攻方持駒なし

受方持駒なし

■ 58-11 幻想咲花氏作

詰将棋 11手 ※透明駒使用

9 8 7 6 5 4 3 2 1

									一
		馬							二
									三
								銀	四
								王	五
			駒		桂	ス			六
		駒		銀					七
									八
									九

持駒なし

※透明駒 攻方 1 枚、受方 0 枚

以上



## 推理将棋第72回出題

担当：DD++

将棋についての話をヒントに将棋の指し手を復元するパズル、推理将棋の第72回出題です。はじめての方は「どんな将棋だったの? - 推理将棋入門」をごらんください。

解答、感想はメールで2013年11月20日までにTETSUまで

(omochabako@nifty.com) メールのお題は「推理将棋第72回解答」をお願いします。解答者全員の中から抽選で1名に賞品リストからどれでも一つご希望のものをプレゼント! 1題でも解けたらぜひご解答ください。

### 推理将棋第72回出題 担当 DD++

第70回のしまぎろうさんに続いて初入選者の登場です。chemicalさんの初作品はなんと桂馬主役の16手ツインという力作。最初から手がある程度絞れるので激ムズというわけではありませんが、手数長めなので今回はダブル上級です。そして初級は先月粗検でご迷惑をおかけしましたということで今度こそ1条件作品。9手の全657904手順リストで検索をかけながら検討したので今回は大丈夫なはず。

そして募集をすっかり忘れていたのですが、今年も年賀推理将棋特集をやるつもりです。午年なので馬を主役にするだけでいいため作りやすい年かもしれませんね。11月末日までの投稿はどうかして全採用するつもりですので、作品ができた方はぜひともご投稿ください。たぶん簡単すぎるほど簡単な問題のほうが担当に喜ばれます。

#### ■練習問題

「さっきの将棋、▲36歩△54歩▲37桂△62金▲45桂△53金まで見てたけどどうなった?」

「9手で詰んだよ、って言えば残りの3手は分かるよね」

さて、残りの3手はどんな手だったでしょうか。

#### ■本出題

##### 72-1 初級 DD++作

早馬 9手

初級ですから、素直に考えて大丈夫です。

##### 72-2 上級 chemicalさん作

桂の四変化(A) 16手

後手の着手内容から見当をつけるのが早いかもしれません。

##### 72-3 上級 chemicalさん作

桂の四変化(B) 16手

Aの条件とは最終玉位置の違いのみですがもちろん手順はかなり違います。

##### 72-1 初級 DD++作

早馬 9手

「昨日9手で詰まして勝ったんだって?」  
「うん。飛車の手があったんだけどそれより前に7~9筋全てに桂馬の着手があったよ」

さて、どんな将棋だったのだろうか?

(条件)

- ・9手で詰んだ
- ・飛車の手より前に7~9筋全てに桂馬の着手があった

##### 72-2 上級 chemicalさん作

桂の四変化(A) 16手

- A「さっきの将棋、桂不成、桂成、桂打ち、成桂の順で王手を指されたよ。」  
B「同じ将棋かな。私の将棋は6筋の手と八段目の手がそれぞれ6回あったね。」  
A「それも同じだね。5手目に左金、15手目に右金を動かした手が敗因かな。」  
B「それで、最後は、48で詰まされたよ」  
A「僕は69だよ。」  
B「え!」  
A「似てるけど、違うみたいだね。」

さて、どんな将棋だったのだろうか?

(条件)

- ・ 16 手で 69 にいる玉が詰んだ
  - ・ 後手が桂不成、桂成、桂打ち、成桂の手の順で王手をかけた
  - ・ 5 手目は左金、15 手目は右金を動かした
  - ・ 6 筋の手と八段目の手がそれぞれ 6 回あった
- ※68 地点の手があれば 6 筋の手と八段目の手両方にカウントします。

詰上り図

	9	8	7	6	5	4	3	2	1	
一	香	桂			王	金	銀	桂	香	
二		飛	銀	金				角		
三	歩	歩	歩	歩	圭	歩	歩	歩	歩	
四					歩					
五										
六							歩			
七	歩	歩	歩	歩	歩	歩		歩	歩	
八		角						飛		
九	香	桂	銀	金	王	金	銀		香	

持駒 なし

7 2 - 3 上級 chemical さん作  
桂の四変化(B) 16 手

7 2 - 2 と同じ会話

(条件)

- ・ 16 手で 48 にいる玉が詰んだ
  - ・ 後手が桂不成、桂成、桂打ち、成桂の手の順で王手をかけた
  - ・ 5 手目は左金、15 手目は右金を動かした
  - ・ 6 筋の手と八段目の手がそれぞれ 6 回あった
- ※68 地点の手があれば 6 筋の手と八段目の手両方にカウントします。

■ 練習問題解答

問題以下、▲同桂成△72 銀▲62 金まで。

桂馬を使う順としてはこんな順もあります。5 手目 6 手目は隠して残り 5 手でも完全です。手順としては△72 銀がポイント。一段目玉の詰みだと二段目に強烈に利く飛車の防御をどう消すかに悩まされることも多いのですが、この△72 銀はそれを遮りつつ銀の守備を外す妙防(推理将棋としては)の 1 手。また、4 手目 42 金でも 4 手目まで明かせば完全で、こちらの場合には△72 金が同様の妙手です。短手数ではよく登場する手なのでぜひとも覚えておきたいですね。

ちなみにこの手順、52 金右や 52 金左でも 4 手目までで唯一手順なので、実は意外と問題を作りやすい手順だったり。



## 推理将棋第73回出題

担当：DD++

将棋についての話をヒントに将棋の指し手を復元するパズル、推理将棋の第73回出題です。はじめての方は「どんな将棋だったの? - 推理将棋入門」をごらんください。

解答、感想はメールで2013年12月20日までにTETSUまで

(omochabako@nifty.com) メールのお題名は「推理将棋第73回解答」をお願いします。解答者全員の中から抽選で1名に賞品リストからどれでも一つご希望のものをプレゼント! 1題でも解けたらぜひご解答ください。

### 推理将棋第73回出題 担当 DD++

実質今年の最終回です、12月末出題を年内に手をつける方も少ないでしょうし。そんな今回は初中級とも9手、上級13手です。初中級は橘圭伍さんから「他の3種の駒が利いている地点」をテーマにした9手詰。4種利いたらダメなので条件を満たしているかの確認は怠りなくどうぞ。上級はチャンプさんから、少年の将棋シリーズからおもちゃ箱出題用に作られた作品。条件はわかりやすいですが、手ごたえはかなりのものですので腰を据えて取り組んでください。

また年末年始の出題ですが、私が1月中旬下旬に選題や執筆をしている余裕がないことが予想されるので、勝手ながら以下のようにさせていただきます。御了承ください。

第73回:11月下旬出題、12月20日締め切り、1月中旬に結果掲載

第74回:12月下旬出題、2月20日締め切り、2月末に結果掲載(年賀詰2ヶ月出題)

第75回:2月下旬出題、以後平常出題

#### ■練習問題

「さっきの将棋、▲76歩△64歩▲33角成△52玉▲22馬△63玉まで見てたけどどうなった?」

「3筋の手はなく9手で詰んだよ、って言えば残りの3手は分かるよね」  
さて、残りの3手はどんな手だったでしょうか。

#### ■本出題

##### 73-1 初級 橘圭伍さん作

秋珊瑚 9手

6手目まではあっという間に二択に絞れません。

##### 73-2 中級 橘圭伍さん作

春黄金花 9手

ヒッカケにはまらなければ初級並。

##### 73-3 上級 チャンプさん作

少年の将棋は? (おもちゃ箱限定 ver)

16手

角の手の棋譜に成も不成もつかないためには?。

##### 73-1 初級 橘圭伍さん作

秋珊瑚 9手

「9手で詰んでいたけどどんな将棋だったの?」

「先手は自身を除く3種の駒の効きがある地点へ角生・角成・飛打の着手を指していたよ」

「後手は自身を除く3種類の駒の効きがある地点へ金を動かしたよ」

さて、どんな将棋だったのだろうか?

(条件)

- ・9手で詰んだ
- ・先手は自身を除く3種の駒の効きがある地点へ角生・角成・飛を打つ手を指した
- ・後手は自身を除く3種類の駒の効きがある地点へ金を動かした

※参考:「自身を除く3種類の駒の効き」の例

- ・初手68玉とした場合、(玉を除いて)飛金銀が利いているので3種類でOK。そこから78玉は動かす前は飛の利きがないので金銀2種類でNG。
- ・先手馬、後手角、後手金、後手金の4枚が利いている地点に別の駒を着手する場合は馬角金の3種類でOK。
- ・先手馬、後手角、後手金、後手銀の4枚が利いている地点だと4種になってしまうのでNG。

##### 73-2 中級 橘圭伍さん作

春黄金花 9手

「9手で詰んだのを見たんだけど何があったの？」

「先手は、3種類の駒の効きがある地点に銀を打ってたよ。」

「後手は自身を除く3種類の駒の効きがある地点に飛を動かした事が2回あったんだ」

「先手が取った駒は金銀歩の3種類だったよ」

さて、どんな将棋だったのだろうか？

(条件)

- ・9手で詰んだ
- ・先手は3種類の駒の効きがある地点に銀を打った
- ・後手は自身を除く3種類の駒の効きがある地点に飛を動かした事が2回あった
- ・先手が取った駒は金銀歩

※参考：「自身を除く3種類の駒の効き」の例

- ・初手68玉とした場合、(玉を除いて)飛金銀が利いているので3種類でOK。そこから78玉は動かす前は飛の利きがないので金銀2種類でNG。
- ・先手馬、後手角、後手金、後手金の4枚が利いている地点に別の駒を着手する場合は馬角金の3種でOK。
- ・先手馬、後手角、後手金、後手銀の4枚が利いている地点だと4種になってしまうのでNG。

### 73-3 上級 チャンプさん作 少年の将棋は？(おもちゃ箱限定 ver) 16手

少年A「君の将棋早く終わったみたいだけど、どんな将棋だったのか教えてよ。」

少年B「どんなと言われても、王手が3回あって13手で詰ませて勝っただけだよ。」

少年A「それだけでは何も分からないよ。」

少年B「仕方がないなー、じゃあ3回あった王手の内容を教えてあげるよ。」

少年A「そうこなくっちゃ！・・・って、これいつものパターン？」

少年B「○四角の王手があった」

「○五角の王手があった」

「○六角の王手があった」

少年A「一応聞くけど、どっちの王手かは教えてくれないんだよね？」

少年B「全て僕(先手)の王手だったけど？(笑)」

さて、どんな将棋だったのだろうか？

(条件)

- ・13手で詰んだ
- ・王手は3回あり、その全てが先手の王手
- ・王手の内容は
  - ・「○四角」の王手
  - ・「○五角」の王手
  - ・「○六角」の王手

※全て棋譜表記のため、同・成・不成・打などは付きません

### ■練習問題解答

問題以下、▲66馬△74玉▲96角まで。

おさらい。推理将棋には無駄合という概念はありません。やけくそ合だろうがなんだろうが、合駒できればまだ詰んでいないわけです。しかし、遠くからの王手で詰まないのかということではなく、後手持ち駒がなければこのように詰ますこともできます。頑張れば攻め駒1枚で詰ますことすら可能ですね。9手詰だと合い効かずの形はかなり形は限られますが、もっと長くなると……さてどんな形がありえるでしょうか。手目までで唯一手順なので、実は意外と問題を作りやすい手順だったり。

なお、3筋の手ありだと左右対称に△54玉▲36角とでき、こちら場合は7手目が▲66歩だったり▲77桂だったりしても詰みますね。

詰上り図

	9	8	7	6	5	4	3	2	1	
一	香	桂	銀	金		金	銀	桂	香	
二		飛								
三	歩	歩	歩		歩	歩		歩	歩	
四			王	歩						
五										
六	角		歩	馬						
七	歩	歩		歩	歩	歩	歩	歩	歩	
八								飛		
九	香	桂	銀	金	王	金	銀	桂	香	

持駒 歩

# 第56回WFP作品展結果 担当:神無七郎

第56回の作品展は全14題。解答者は7名でした。以下に今月の解答成績をまとめます。

## 〔第56回WFP作品展成績〕(敬称略)

○:正解 -:無解 ×:誤解

解答者名	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	計	
たくぼん	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	-	13
橋圭伍	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	-	13
一乗谷酔象	○	○	○	-	-	-	-	-	-	-	○	-	○	○	6	
占魚亭	-	○	○	○	-	-	-	○	-	-	○	-	-	-	5	
DD++	○	○	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	○	-	4	
幻想咲花	○	○	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	
変寝夢	○	○	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	

今回は全体的に難度が高かったのですが、ラストの一乗谷酔象氏の推理将棋が(作者以外)正解者ゼロとなってしまいました。荻絵氏の超長編は手数短い56-12の方が56-13より解答者が少ないという結果に……手数と難度は必ずしも一致しないようですね。

### ■ 56-1 変寝夢氏作(正解6名)

#### 協力詰5手

9 8 7 6 5 4 3 2 1

										一
										二
							包			三
										四
										五
						王				六
										七
										八
龍	龍					王				九

持駒 包2  
(※包=パオ)

#### 【ルール】

##### • 協力詰

先後協力して最短手数で受方の玉を詰める。

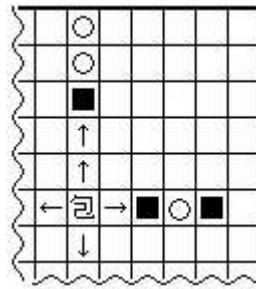
##### • パオ(包)

中国象棋の駒。動くときは飛車と同じ。駒を取るときは必ず一つ駒を飛び越えて取る。

(補足)

- 飛び越える駒は敵味方どちらでもよい。
- グラスホッパーと違って着地場所は飛び越えた駒の隣でなくてもよい。

- 成ることはできない。特に記述しない限り受方の持駒に包はない。
- 2つ以上の駒は飛び越せない。



(■は敵か味方の駒。○は取るときに動ける場所。矢印は駒を取らないときに動ける場所。)

#### 【解答】

37王 33馬 99包 88飛生 89包 まで5手

(詰上り)

										9
										8
										7
										6
										5
										4
										3
										2
										1
										一
										二
										三
										四
										五
										六
										七
										八
										九

持駒 なし

#### 【作者のコメント】

88飛生が狙いの1手。

#### 【解説】

包の重ね打ちの手筋にちょっとしたアレンジを施した作品。

ホッパー系の駒を2枚並べる詰型は頻出の手筋で、包以外にも応用が利きます。包を2枚並べると、遠い方の包で王手ができます。包の利きを止めようと途中に合駒をすると、近い方の包の利きが有効になるので結局合駒できません。ただし、並べ方には注意が必要です。もし2枚の包の間に隙間があれば、そこに合駒することが可能なので、隙間なく隣接させねばなりません。そのため5手目89包が限定打となります。

包の連続遠打にちょっとした彩を添えるのが4手目の88飛生。これを88飛成とすると、最終手に対し「99龍」と遠い方の包を取られてしまうのです。飛を8段目以外に引いても99

馬で、やはり 99 包を取られます。88 飛生は、99 包を取らないための一石二鳥の手だったわけです。

包に限らずホッパー系の駒は「打った駒と王手を掛けている駒が違う」ことがあり、新鮮な感覚を味わえます。これに伴う新手筋もまだまだ眠っていると思います。

【短評】

幻想咲花さん

なんとなくチェスプロブレム感覚。面白い。

☆ 確かに合利かずの詰上りはチェス風に感じてしまいますね。包を使った作品で象棋（中国将棋）ではなくチェスを思い浮かべるのは、時流でしょうか。

一乗谷酔象さん

パオの重打ちは基本手筋でした。

橘圭伍さん

パオは火辺が一番字形的には好きですが我が PC では出ません。作ればいいんでしょうが Pao 自体は少し触った事があるので今回は何時もより解きやすかったです。Pao の性能が良く分かる作品だと思います。

☆ 「炮」は JIS でも Shift-JIS でも定義されている文字なので、橘さんの PC でも入力できると思います。いろいろ入力方法はありますが、「E07B」を変換すればこの文字が出てきます。

たくぼんさん

大駒を動かしてその元いた場所に包を打つ。これは見事！

DD++さん

最後 59 以遠どこでもいいのかと思ったら、なるほど 89 飛などが合駒として成立するのを防ぐ必要があるのですね。これは包ならではの面白さ。

■ 56-2 変寝夢氏作（正解 7 名）

協力詰 3 手

	9	8	7	6	5	4	3	2	1	
										一
										二
									飛	三
							王			四
					歩					五
										六
										七
										八
										九

持駒 金  
（※13 飛は中立駒）

【ルール】

- 中立駒（「𨔵」あるいは「n 駒」）  
どちらの手番でも動かせる駒。  
横向きの字か横に n を付加して表記。  
→詳細は WFP61 号の「中立駒の紹介」の記事を参照してください。

【解答】

23n 飛成 26n 龍 44 金 まで 3 手  
(詰上り)

	9	8	7	6	5	4	3	2	1	
										一
										二
										三
						金	王			四
						歩				五
									龍	六
										七
										八
										九

持駒 なし

【作者のコメント】

方向転換物。  
中立駒を使わないと打ち換えなど大げさになってしまう。

【解説】

中立駒による「2 手指し」の表現。  
13 飛を 26 に移動するには普通は 2 手必要ですが、本局は中立駒なので相手の手番も利用し

て移動します。この感触はまるで連続詰のようですが、中立駒を「1回おきに王手を掛ける義務がある連続詰」として利用するのは、単なる連続詰とは異なる味があり、中立駒を詰将棋に適用したことによる効用と言えそうです。

この作品の応用としては、飛を持駒にして全体を一段上げ「25n 飛 27n 飛成 45 金 まで 3手」とするような路線も考えられます。この手順は「(王手義務がなければ) 1手で打てる場所に(王手義務を満たすため) 2手掛けて行く」と解釈できるのですが、別の解釈もできます。実はそれがこの次の作品で現れるので、詳しくは次局で解説します。

【短評】

幻想咲花さん

さすがに詰上がりが一つしかないのでらくしょ～でした。

橘圭伍さん

氏は中立駒は取れない駒で取れるのはニュートラルピースと使い分けていた気がしました。本作品は例題の域を出てませんがこちらも昔触った事があるので感覚的にはやりやすかったです。

☆ 厳密な言葉の区別は分かりませんが、昔は「中立駒は取れない」とされてきました。例えば「おもちゃ箱」でそのルール設定の作品を見ることができます。(http://www.ne.jp/asahi/tetsu/toybox/kato/fkoma.htm) これからは「中立駒も取れる」設定の作品が増えるように思います。

占魚亭さん

中立駒の感覚に慣れず、詰みの確認で少し混乱。

たくぼんさん

一度に2手指したような感覚ですね。

DD++さん

感覚をつかむまで少しかかりました。最後は絶対に中立駒でない駒が王手をかける必要があることに気づいてようやく。

■ 56-3 変寝夢氏作 (正解7名)

協力詰 3手

9 8 7 6 5 4 3 2 1

									一
									二
					馬				三
									四
					王				五
									六
									七
									八
									九

持駒 n香 銀

【解答】

46n 香 47n 香成 46 銀 まで 3手

(詰上り)

9 8 7 6 5 4 3 2 1

									一
									二
					馬				三
									四
					王				五
					銀				六
					歩				七
									八
									九

持駒 なし

【作者のコメント】

こういった図面が一目になると中立駒も楽しく感じられると思います。

【解説】

中立駒を使って成駒を打つ作品。

まずは持駒が「銀 n 香」ではなく、「銀 n 歩」だった場合を想像してください。すると

46n 歩 47n 歩成 46 銀 まで 3手

で詰みますね。これは作意の香が歩になっただけです。でも、これでは初手がほぼ必然手になってしまいますね。持駒が香であるからこそ「香は離して打て」の逆を行く 46 香の「短打」が味わえるのです。

本局は前局と同様、相手の手番も利用した中立駒の2手指しですが、この2手は「成香を打った」とも解釈できます。香をそのまま打つと



香のままですが、もし駒を裏返して打てれば成香、すなわち金と同等の駒を打てたこととなります。また、本局の手順は「香」という駒の利きの非対称性を意識させます。なぜなら、本来動けない場所への移動(46 から 47 へのバック)が行われているからです。前局では「飛」という対称的な利きを持つ駒を使っていたため非対称性は感じられなかったのですが、香を使ったことで、本来は行けない場所にも行ける中立駒の特徴がより際立っています。

本局は中立駒を使った小品ですが、このルールの持つ可能性を感じるには充分でしょう。この分野への新しい作家の参入と、今後の広がり期待します。

【短評】

幻想咲花さん

一瞬で手順が浮かんだと思ったら、46 銀は同 n 成香で取れんじゃんって思ったら、更に 45n 成香で玉取れんじゃんって思って解けた。  
n 駒もこれまた面白そうだなあ。

一乗谷酔象さん

最後、同 n 成香と取れないですね。

☆最後の銀が取れそうで取れないことに対するコメントが2つ寄せられました。中立⇄双方の敵、玉の近くの中立駒は特に危険です。

橘圭伍さん

先後が協力して成を達成する基本筋。昔、似た作品を作った記憶が微かにあります。時間があれば弄ってもいいかと思っていますが今は弄っているルールが3つ程ありこれが限界かなと思ってます。

占魚亭さん

氏の中立駒紹介(61号)に目を通してよかったです。

たくぼんさん

とても詰むとは思えなかったが香成らせがありましたか。

DD++さん

これ、真ん中5筋に置かずにわざわざずらしてあるのは余詰むんですかね？ 想像つきませんが。

☆中央に配置しても大丈夫に見えますね。なぜ中央の配置にしなかったのかは作者ご自身のコメントを待ちましょう。

■ 56-4 神無太郎氏作 (正解3名)

安南協力自玉スタイルメイト 12手

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
							王		一
									二
								香	三
									四
									五
									六
									七
									八
									九

持駒 桂4

【ルール】

• 安南

味方の駒が縦に並ぶと、上の駒の利きは下の駒の利きになる

【解答】

15 桂 11 玉 13 桂 12 角 22 香成 同玉  
14 桂 13 玉 23 桂成 31 玉 22 桂打 23 角  
まで 12 手

(最終形)

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
						王			一
							桂		二
							桂		三
								桂	四
									五
									六
									七
									八
									九

持駒 なし

【解説】

ここから4題は神無太郎氏による、安南系ルールのシリーズ作品。初形は裸玉に攻方駒を1枚加えただけ、持駒はすべて桂4枚に統一され

ています。初形だけでなく最終形にも統一性があるのですが、それは後のお楽しみです。

シリーズ冒頭のこの作品、実は一番難解です。

スタイルメイトの基本は駒を減らすことですが、作意を見ていただければ分かるように、本局は最終手2手前に動ける駒が(持駒も含め)まだ3枚もあります。その後たった2手で動ける駒がなくなるのですから、この収束を想定せず、試行錯誤だけで解くのは困難でしょう。駒が残る不安との戦いですね。

解図の鍵となるのは2点。まずは桂を盤上に残してその利きの先に「行き所ない桂」を置く筋に狙いを絞れるかどうか。安南では性能変化により「行き所ない桂」で王手することが可能なのを忘れてはいけません。次に「行き所ない桂」で王手した後、その性能変化をもたらした駒をどう処分するか。ここで角合の妙手に気づく必要があります。性能変化の種駒を取るだけなら金合や銀合でも良いのですが、10手目の玉の大ジャンプを可能にできるのは角合だけなのです。

本局は4手目と8手目には盤上の配置が「1」になりますが、これは半分偶然、半分必然といったところでしょうか。同じ筋に駒が何枚も並ぶと利きの変化も複雑になるので、作家側から見るとそこが「狙い目」になるのです。

【短評】

**変寝夢さん** (※無解)

2手目11玉が完全に盲点。  
消すなら外から回り込まないと、と考えていた。

**橘圭伍さん**

そればい手をやっていたらスタイルメイトしてました……

**占魚亭さん**

序の3手はこれしかないので合駒さえ分かれば、ですね。

**たくぼんさん**

角合からの13玉が見えにくかった。

☆ 無解が多い原因はこれでしょうか。13玉は上部に逃がすようで抵抗がありますね。

■ 56-5 神無太郎氏作 (正解2名)

安東西協力自玉スタイルメイト 10手

								角	一
									二
								王	三
									四
									五
									六
									七
									八
									九

持駒 桂4

【ルール】

• 安東西

味方の駒が横にいと、その駒の利きになる。複数の駒がある場合は、それらの利きを合成した利きになる。

【解答】

31 桂 22 飛 25 桂 23 玉 33 桂成 同玉  
25 桂 同飛 11 桂 21 飛 まで 10手

(最終形)

								桂	王	桂	一
											二
								王			三
											四
											五
											六
											七
											八
											九

持駒 なし

【解説】

いかにも 31 桂を打ってくださいという初形。実際作意もそうなのですが、後続の手が肝心。31 桂 23 玉 22 桂成 同玉 31 桂 21 玉……のような平凡な手順では手数オーバーになってしまいます。とはいえ、ちょっと粋に 31 桂 12 玉 42 桂生……というような手をやってみても、意外と効率が良くありません。

解図のカギは前局と同様、駒を消す助けとな

る合駒を発生させることです。桂を打った時に性能変化の元となる角を取れるように……と考えると作意の飛合も見つけやすいでしょう。合駒の飛を活用しながら左右で趣向的に1段目の桂を打ち、角を取り払った瞬間1段目に取り残された桂が「行き所ない駒」に変身するのは気持ち良い手順ですね。

本局も前局同様、最終形で桂が2枚盤上に残りました。シリーズを通しての共通点がだんだん見えてきましたね。

【短評】

**変寝夢**さん（※無解）

3 1 桂、2 3 玉、3 2 角以下旨く詰んだと思ったら3手目が反則でガッキシ。

☆ 角が桂の性能になっているので 3 2 角は反則ですね。利きの変化が一方的な「安南」と相互的な「安東西」との違いがここにあります。

**橘圭伍**さん

11,31の2箇所桂を置いて21角を消せばよいと気づくのは早かったんですが22飛が盲点に・・・

**たくぼん**さん

前が角合ならば今度は飛合のはず・・・邪道な解図法でした。

■ 56-6 神無太郎氏作（正解2名）

安東西協力自玉スタイルメイト 12手

9 8 7 6 5 4 3 2 1

									一
									二
									三
									四
									五
									六
									七
									八
									九

持駒 桂4

【解答】

39 桂 37 玉 49 桂 38 玉 47 桂打 39 玉  
92 桂生 49 玉 67 桂 48 玉 12 桂生 57 玉  
まで 12手

(詰上り)

										9	
										8	
										7	
										6	
										5	
										4	
										3	
										2	
										1	
桂										桂	一
											二
											三
											四
											五
											六
											七
											八
											九

持駒 なし

【解説】

角を軸とした桂の左右へのジャンプが主題。桂を打って桂と角の利きを入れ替え、桂を飛ばして角の利きを元に戻して王手…を繰り返します。右から打った桂は左に、左から打った桂は右に跳ぶのが、反動をつけるようで面白いですね。最初に打った桂が玉の軌跡を限定し、持駒桂一色の条件をうまく消化しています。

本局は前2局より単純な構成で、合駒は登場しません。今回も最終形で桂が2枚盤上に残ったので、次の作品も桂2枚が盤上に残りそうだと推測できます。では、次に行きましょう。

【短評】

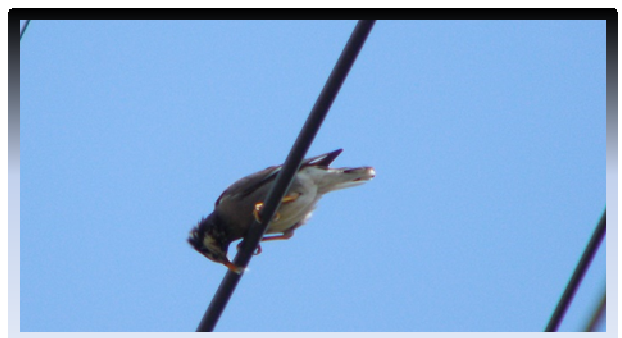
**橘圭伍**さん

左右に丁度飛ばせるのでそれに合うように最初桂を打てるので非常に易しい

**たくぼん**さん

左右に飛び散る桂の様が凄い。これはお気に入りです。

☆ 合駒が出ない分、本局は前2局より易しいはずですが、解答者はわずか2名。難しい作を先に置いた出題順の失敗ですね。



■ 56-7 神無太郎氏作（正解2名）

安南北協力自玉スタイルメイト 12手

										一
										二
										三
										四
										五
										六
							王			七
										八
		角								九

持駒 桂4

【ルール】

・安南北

味方の駒が前後にいと、その駒の利きになる。複数の駒がある場合は、それらの利きを合成した利きになる。

【解答】

59 桂 57 玉 69 桂 68 玉 77 桂打 69 玉  
11 桂生 59 玉 77 桂 69 玉 22 桂生 78 玉  
まで 12手  
(最終形)

										一
									桂	二
									桂	三
										四
										五
										六
										七
							王			八
										九

持駒 なし

【解説】

シリーズ最後の作は前後の味方駒の影響を受ける「安南北」です。本局も角が発射台となること、最初に打った桂2枚が玉の軌跡を限定すること、合駒が出てこないことなど、前局と共通する構成で、前局を解いた人なら苦も無く解けるでしょう。

前局と異なるのは同じ角筋に桂を2枚並べること。1段目でも2段目でも「行き所のない

駒」になる桂の性質がここで活かされていますね。このルールでもっと桂を盤上に残すにはどうするか考えると面白そうです。

【短評】

橋圭伍さん

6と同じ原理で行けるのでこれは更に易しかったです。

たくぼんさん

前作の流れですぐ閃きました。これも面白い。

☆お二人とも前局をヒントに本局を解いたようです。この4題はちょうど逆順に並べるのが良かったみたいですね。

■ 56-8 橋圭伍氏作（正解3名）

キルケ協力詰 35手

										一
								王	王	二
							王			三
							香	香	香	四
							香	香	香	五
							香	香		六
							香	香		七
								香	香	八
										九

攻方持駒桂4 香5

受方持駒なし

【ルール】

・キルケ

駒取りがあったとき取られた駒が、最も近い将棋での指し始め位置に戻される。

【解答】

22 香 11 玉 21 香成 12 玉 11 杏 同玉/19 香  
12 香 21 玉 22 香 同金 11 香成 同玉  
12 香 同金寄 23 桂 21 玉 11 桂成 22 玉  
21 圭 23 玉 15 桂 同金右上/29 桂 22 圭 24 玉  
16 桂 同金直 23 圭 同玉 15 桂 22 玉  
24 香 23 香 同桂成/11 香 21 玉 32 圭  
まで 35手

(詰上り)

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
						王	王	皇	一
					王	圭		香	二
						香		香	三
						香	香	香	四
						香	香		五
						香	香	香	六
							香	香	七
									八
							桂	香	九

攻方持駒なし  
受方持駒桂2 香2

【作者のコメント】

本作品では、飛・金以外は取る事が可能である事で成立する手順となっています。15・16と2ヶ所の空きを利用して両王手が可能な形に持っていきます。不要な金を置いて形を整形しても良かったですが今回は完全になる必要最低限にしたいと思います。収束形が分かれば易しいはずですが恐らくキルケに慣れていないと大変だと思います。

【解説】

キルケを攻方取禁のように利用した作品。飛金以外の駒を取れる分、取禁より柔軟性があり、実際に作意でも香を取る（実際には復活で逃げられる）手が入っています。

盤面は31 飛が混じっている以外は金がビッシリ埋まった密集形。空枀はほとんどありません。この種の作品を解くコツは、空間をなるべくひとまとまりにすることです。初形には1筋に2つの空間があるので、このうち一つを2筋に持ってきます。

空間を2筋に寄せてどうするか？ それは詰上りと関係しています。本局は守備駒が強いので普通的手段ではなかなか詰みません。しかしこういう場合は「両王手」という必殺技があります。これならいくら守りが強くても関係ありません。幸い32 地点が空いているので、ここも利用して両王手の形を作ります。これが2筋に空間を集める理由です。本局の初形は、出題時に作者自身が例題として示された図に似ていますが、持駒の香の数が少ないため、11 桂成の筋で詰めることはできません。その代わりに16 に空間があるので、これを活用して両王手の形

を作るのです。

両王手で詰める直前には、キルケの効果で復活した香で狭い密室を更に狭くします。狭い空間を更に狭める面白い手順ですね。

【短評】

一乗谷酔象さん(※無解。56-8~56-10 について)  
桂香の数が足りない。

橘圭伍さん

最後だけ、キルケという作品。11 の地点を龍で埋めるような展開もあります。

占魚亭さん

桂香捌きが見事かつ楽しい佳作。

たくぼんさん

最後キルケらしい収束。  
最初に予想した詰上りがこれでした。

☆ 両王手を「予想」してしまう辺りはさすがですね。普通は例題に引っ張られて11 桂成の筋を追ってしまうと思います。

■ 56-9 橘圭伍氏作 (正解2名)

キルケ協力詰 47手

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									一
									二
									三
									四
									五
									六
									七
									八
									九

攻方持駒桂9 香6  
受方持駒なし

【解答】

82 香 91 玉 92 香 同金/99 香 81 香成 同玉  
93 桂 同金引/89 桂 82 香 同玉 94 桂 91 玉  
82 桂成 同金引 83 桂 81 玉 71 桂成 91 玉  
81 圭 同金 83 桂 82 玉 94 桂 83 玉  
82 桂成 同玉 94 桂 同金寄 84 香 91 玉  
83 桂 82 玉 71 桂成 91 玉 82 香成 同金寄  
83 桂 同金上 92 香 同玉 84 桂 82 玉



72 桂成 91 玉 92 香 同金上 81 圭寄 まで 47 手

(詰上り)

	9	8	7	6	5	4	3	2	1	
王	圭									一
香		圭	王							二
香	香	香	圭							三
香		香	圭							四
香	香	香	香							五
	香	香								六
										七
										八
香	桂									九

攻方持駒なし  
受方持駒桂6 香5

【作者のコメント】

例題と同じく、キルケをただ密室を作る為だけに使用している作品です。

先の作品(35手)が密集した金の中に空き地を求めたのに対してこちらは金の外に余分な空き地を求めた事になっています。

71 部分が使用可能かどうかで全く可能な事が変わってくるのがこの密集系の面白い部分だと思っています。

この形式の作品も何作か見つかりましたが一番駒繰りが美しかったので投稿させて頂きませぬ。

【解説】

玉の周りの空きマスは5つ。この条件は前局と変わりませんが、すべての空きマスが2段目以下にあるので、このままでは桂が使えません。その代わりに本局では 71 が空いているので、71 桂成の実現を目指し、前局とは逆に空間を縦に押し広げていきます。そのため前半の 17 手は 71 桂成の実現のために費やされます。

しかし本当に意外なのはこれから。17 手も掛けて作った成桂をあっさり捨て、更に上部開拓を行います。そして 33 手目開き王手の 71 桂成で今度こそ玉を詰めるための成桂を作ります。

本局はキルケ特有の手は出てきませんが、細かく形を変えながら詰型に持って行く手順が巧妙で、攻方取禁を利用した入替パズル型作品の醍醐味を味あわせてくれる秀作です。

【短評】

橘圭伍さん

一番素直な作品ですが上辺突破しようとする人が居そうなので上を不要ですが埋めた方が良かったかもしれません。

たくぼんさん

11 手目 94 桂から 91 玉以下の応酬が素晴らしい手順。打ってすぐ捨てて同じところに打って・・・読みにくい順が多かった。

☆ 本局と次局の作者以外の正解者はたくぼんさんのみ。実質唯一の正解者です。大多数の解答者が本局の繊細な手順に到達できなかったのが残念です。

■ 56-10 橘圭伍氏作 (正解2名)

キルケ協力詰 77手

	9	8	7	6	5	4	3	2	1	
								王		一
					王					二
								圭	圭	三
				圭	金	圭	圭	圭	圭	四
				圭	圭	圭	圭	圭	圭	五
				圭	圭	圭	圭	圭	圭	六
					圭	圭	圭	圭		七
										八
										九

攻方持駒桂9 香10  
受方持駒なし

【解答】

- 22 香 11 玉 21 香成 12 玉 11 杏 同玉/19 香
- 12 香 21 玉 11 香成 同龍 33 桂 12 玉
- 13 香 22 玉 12 香成 同龍右 21 桂成 同龍引/29 桂
- 23 香 12 玉 22 香成 13 玉 12 杏 同玉
- 13 香 同龍右 24 桂 22 玉 32 桂成 23 玉
- 24 香 12 玉 22 香成 同龍左引 24 桂 13 玉
- 12 桂成 23 玉 24 香 12 玉 23 香成 同龍引
- 24 桂 13 玉 12 桂成 同龍引 25 桂 23 玉
- 24 香 同龍左引 33 桂成 13 玉 23 圭 同龍左引
- 25 桂 14 玉 13 桂成 15 玉 14 圭 25 玉
- 15 圭 同龍右引 26 香 同玉 38 桂 同龍左
- 18 桂 25 玉 28 香 14 玉 26 桂 25 玉
- 14 桂 27 龍左寄 17 桂 26 玉 18 桂 まで 77 手

(詰上り)

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
							龍	龍	一
					王	圭	龍	龍	二
							龍		三
				龍	金	龍	龍	桂	四
				龍	龍	龍		龍	五
				龍	龍	龍	王	龍	六
					龍	龍	龍	桂	七
						龍	香	桂	八
								香	九

攻方持駒なし  
受方持駒桂5 香8

【作者のコメント】

色々弄った結果、比較的美しい初形で1段目から上に呼びだす手順がある事が分かりました。

再生した29桂を再度跳ねさせる手順はかなり無理があったようで形が悲惨でしたがこちらの様に上部で纏める事でかなり整形出来る事が分かりました。

当初は巧く出来なかったのですが44金の形にする事でかなり巧く出来ました。

【解説】

44金以外は龍だらけの初形が印象的。原図はもう少し不純物が多かったのですが、完成図は見事に龍の塊が出来ています。龍が金と比べて後ろへ動きやすいこと、龍の守りが強力であること等から、下段で成駒を作る詰筋はほぼ消滅。水底に生じた気泡が水面に向かうように、玉とその周りの空間を前進させ、上部開拓による詰筋を求めます。

この形、一見すると2段目に龍を置けないように思えますが、それは誤りです。32に遮蔽駒(この場合は成桂)を置くことによって、自玉への王手が掛かるのを防ぐことができます。そうして空きマスを確認しながら前進し、玉が6段目に辿り着き、7段目の龍を移動させた66手目付近では、もう詰んだも同然、ようやく光が差したように感じるでしょう。しかし、ここからが一筋縄ではいきません。

(途中図) 66手目同龍左の局面

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
							龍	龍	一
					王	圭	龍	龍	二
							龍		三
					龍	金	龍	龍	四
					龍	龍	龍		五
					龍	龍	龍	王	六
						龍	龍		七
							龍		八
								桂	九

攻方持駒 桂2香  
受方持駒 桂5香8

ここですぐに28香と打ちたくなるのをグッとこらえて、18桂の後に28香とするのが妙手。玉を一旦14まで戻し、香と桂の開き王手を使って、もう一度玉を26まで戻します。この回り道のような手順は17桂を発生させて「龍の利きの遮断」と「25の逃げ道封鎖」の2つを行うのが目的です。また、この手順では桂が1枚足りないように見えるのですが、17桂は玉で取れない(取ると29に桂が復活して王手になる)ので、17桂「打」としなくて済み、1枚省略できるのです。この手順は「桂の復活場所を残すための8段目の限定打」にも使えそうですね。

このシリーズではキルケを攻方取禁として利用してきたわけですが、最後の最後で受方に対する取禁効果を使った詰上りが登場しました。シリーズの締めくくりに相応しい作品だと思います。

【短評】

橘圭伍さん

最も難しいと思いますが17桂が29が空いている限り取れないというのを知っているかどうか。

たくぼんさん

復活した桂香が働く詰上りがやはりキルケでは好ましい。それにしても試行錯誤を繰り返しました。

☆ シリーズの掉尾を飾る本局、難解な作品でしたが、解答者ゼロにならなくて本当に良かったと思います。

■ 56-11 たくぼん氏作 (正解4名)

強欲協力詰 77手

					ス	歩	科			一
		銀	歩			馬	と			二
	角	桂				皇				三
銀		歩			龍		と			四
歩		香		銀		歩	歩			五
科		王			香			と		六
					歩		歩	歩		七
手	歩				香	飛				八
と	と				と	歩	金			九

持駒 なし

【ルール】

・強欲

駒を取る手を優先して着手を選ぶ。

【解答】

- 85 銀 同玉 74 角成 95 玉 96 馬 同玉
- 41 馬 同と 97 歩 同玉 98 と 同金
- 89 桂 同金上 98 歩 88 玉 79 と 98 玉
- 89 と 同玉 88 金 同玉 87 金 同玉
- 79 桂 77 玉 66 銀 同玉 55 龍 同玉
- 67 桂 54 玉 63 銀生 同玉 55 桂 62 玉
- 61 桂成 同玉 71 香成 同玉 63 桂生 61 玉
- 51 桂成 同玉 41 と 同玉 43 香生 同桂
- 42 香 同玉 33 と 同玉 35 香 同桂
- 34 歩 同玉 25 と 同玉 27 飛 同桂生
- 36 銀 同玉 37 歩 47 玉 48 と 同玉
- 39 金 37 玉 28 金右 26 玉 17 金 同玉
- 18 歩 同玉 19 歩 同桂成 28 金 まで 77 手

(詰上り)

										一
										二
										三
										四
										五
										六
										七
								金	王	八
								歩	手	九

持駒 なし

【作者のコメント】

難易度は低いので悩むところはないと思います。狙いは先手と後手両方での桂の4段跳ねです。

【解説】

準煙詰+双方桂四段跳。

本局は全駒配置からどんどん駒が消え、最後は駒4枚の角砂糖図式になります。18玉型なら駒3枚で詰むので、「純煙」ではなく「準煙」となりますが、気分は煙詰とほとんど同じです。正解者は4名ですが、難度はそれほど高くないので、今回出題された作品数が少なければもっと解答を集めたと思います。

さて、記録面から見ると重要なのは準煙より双方桂四段跳の方です。これは意外と作例がないのですが、条件作と言えはこの人、七條兼三氏に一作ありました。

【参考】普通詰将棋の双方桂四段跳  
七條兼三「将棋墨水」第66番  
(詰将棋パラダイス 1980年3月)

詰将棋 53手

										一
										二
										三
										四
										五
										六
										七
										八
										九

持駒 なし

- 26 と 45 玉 37 桂 44 玉 34 と 同玉
- 25 と 33 玉 45 桂 32 玉 33 金 41 玉
- 53 桂生 51 玉 61 桂成 同玉 72 と 同玉
- 73 歩成 同桂 64 桂 82 玉 85 香 同桂
- 83 歩 同玉 72 銀 94 玉 97 香 同桂生
- 85 金 同玉 89 飛 同桂成 同飛 同金
- 97 桂 96 玉 87 金 95 玉 86 金 84 玉
- 85 金 73 玉 74 金 82 玉 83 金 91 玉
- 81 銀成 同玉 72 桂成 91 玉 82 圭
- まで 53 手
- ※41 手目 86 銀以下の着手非限定あり

上記の作品では攻方の桂が最初から盤上に配置されていますが、本局では攻方の桂を打つ

ところから開始しているので、桂の5段活用になります。条件としてはこの方が難しく、意外性もあるので、「打った桂の四段跳ね」は価値が高いと思います。欲を言えば、受方の桂も合駒で出して欲しかったですが、これはちょっと贅沢すぎる要望でしょうか。(特に強欲ルールでは。)

【短評】

変寝夢さん (※無解)

序盤が全く見当がつかなかった。2×2で詰めるのってパラで見た気がしますね。なんだったかな？

☆ 2×2は思い出せませんが、詰上り4枚の準煙詰は作者自身が**50-7** (WFP56号) で発表されています。これは◇型の詰上りでした。

一乗谷酔象さん

難しいところがなく、滑らかに手が繋がりました。打った桂の4段跳ねが巧み。

橋圭伍さん

双方桂の4段跳ねでしたか。最後もきっちり小駒4枚と捌き切る辺りが熟練の技ですね。

占魚亭さん

双方の桂四段跳ねが出現して吃驚。

たくぼんさん

たくさんの方に楽しんでいただければ・・・  
12月号で個展開催予定ですのでそちらもよろしく。



■ 56-12 荻絵香木氏作 (正解2名)

協力詰 2571手

	9	8	7	6	5	4	3	2	1	
一	香	香	科	銀	と			科	皇	
二	香	王	入							
三		皇	香	香	香			金		
四	歩	馬		皇					龍	
五			香	皇						
六				香		桂			王	
七										
八						歩	桂	歩	馬	
九							香		皇	

持駒 歩7

【解答】

93歩成 同玉 94歩 同玉 95歩 85玉  
86歩 76玉 77歩 67玉 68歩 56玉  
57歩 55玉 15龍 44玉

(途中図1) 持駒増幅機構の登場

	9	8	7	6	5	4	3	2	1	
一	香	香	科	銀	と			科	皇	
二	香		入							
三		皇	香	香	香			金		
四		馬		皇		王				
五	歩		香	皇					龍	
六		歩		香		桂			王	
七			歩		歩					
八				歩		歩	桂	歩	馬	
九							香		皇	

持駒 歩

第16手目 44玉

『14龍 35玉 17馬 36玉 37歩 45玉  
18馬 36歩 15龍 44玉 14龍 35玉  
36歩 45玉 15龍 35歩 同歩 44玉』  
(『』内の18手をAとする)

A A

『14龍 35玉 17馬 36玉 37歩 45玉  
18馬 36歩 15龍 44玉 14龍 35玉  
36歩 45玉 15龍 44玉 14龍 55玉』  
(『』内の18手をBとする)  
56歩 同玉 57歩 同玉 58歩 68玉  
69歩 77玉 **78歩** 67玉 68歩 56玉  
57歩 45玉 15龍 35歩 同歩 44玉

(途中図2) 7筋の歩を下げた

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
歩	歩	歩	銀	と			歩	歩	一
歩		歩							二
	歩	歩	歩	歩	歩		金		三
	歩		歩		王				四
歩		歩	歩			歩		龍	五
	歩		歩		桂			王	六
				歩					七
		歩	歩		歩	桂	歩	馬	八
						歩		龍	九

持駒 歩

第106手目 44玉

A A A B

56歩 同玉 57歩 同玉 58歩 68玉  
 69歩 78玉 **79歩** 67玉 68歩 56玉  
 57歩 45玉 15龍 35歩 同歩 44玉

(途中図3) 7筋の歩を更に下げた

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
歩	歩	歩	銀	と			歩	歩	一
歩		歩							二
	歩	歩	歩	歩	歩		金		三
	歩		歩		王				四
歩		歩	歩			歩		龍	五
	歩		歩		桂			王	六
				歩					七
			歩		歩	桂	歩	馬	八
		歩				歩		龍	九

持駒 歩

第196手目 44玉

(途中図1から途中図3までの 180手をD7とする)

A A A B

56歩 同玉 57歩 同玉 58歩 68玉  
 69歩 77玉 78歩 86玉 **87歩** 76玉  
 77歩 67玉 68歩 56玉 57歩 45玉  
 15龍 35歩 同歩 44玉

(途中図4) 8筋の歩を下げた

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
歩	歩	歩	銀	と			歩	歩	一
歩		歩							二
	歩	歩	歩	歩	歩		金		三
	歩		歩		王				四
歩		歩	歩			歩		龍	五
			歩		桂			王	六
		歩	歩		歩				七
			歩		歩	桂	歩	馬	八
						歩		龍	九

持駒 歩

第290手目 44玉

D 7

A A A B

56歩 同玉 57歩 同玉 58歩 68玉  
 69歩 77玉 78歩 87玉 88歩 76玉  
 77歩 67玉 68歩 56玉 57歩 45玉  
 15龍 35歩 同歩 44玉

(途中図5) 8筋の歩を更に下げた

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
歩	歩	歩	銀	と			歩	歩	一
歩		歩							二
	歩	歩	歩	歩	歩		金		三
	歩		歩		王				四
歩		歩	歩			歩		龍	五
			歩		桂			王	六
		歩		歩					七
		歩	歩		歩	桂	歩	馬	八
						歩		龍	九

持駒 歩

第564手目 44玉

(途中図1から途中図5までの 548手をD8とする)

D 7

A A A B

56歩 同玉 57歩 同玉 58歩 68玉  
 69歩 77玉 78歩 86玉 87歩 95玉  
**96歩** 85玉 86歩 76玉 77歩 67玉  
 68歩 56玉 57歩 45玉 15龍 35歩  
 同歩 44玉



(途中図6) 9筋の歩を下げた

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
歩	歩	歩	銀	と			歩	歩	一
歩		歩							二
	歩	歩	歩	歩	歩		金		三
	歩		歩		王				四
		歩	歩		歩			龍	五
歩	歩		歩		桂			王	六
		歩	歩						七
			歩		歩	桂	歩	馬	八
						歩		歩	九

持駒 歩  
第842手目 44玉

D 8

D 7

A A A B

56歩 同玉 57歩 同玉 58歩 68玉  
69歩 77玉 78歩 86玉 87歩 96玉  
97歩 85玉 86歩 76玉 77歩 67玉  
68歩 56玉 57歩 45玉 15龍 35歩  
同歩 44玉

(途中図7) 9筋の歩を更に下げた

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
歩	歩	歩	銀	と			歩	歩	一
歩		歩							二
	歩	歩	歩	歩	歩		金		三
	歩		歩		王				四
		歩	歩		歩			龍	五
	歩		歩		桂			王	六
歩		歩	歩						七
			歩		歩	桂	歩	馬	八
						歩		歩	九

持駒 歩  
第1668手目 44玉

D 8

D 7

(途中図8) 7・8筋の歩を下げ収束へ

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
歩	歩	歩	銀	と			歩	歩	一
歩		歩							二
	歩	歩	歩	歩	歩		金		三
	歩		歩		王				四
		歩	歩		歩			龍	五
			歩		桂			王	六
歩				歩					七
	歩		歩		歩	桂	歩	馬	八
		歩				歩		歩	九

持駒 歩  
第2396手目 44玉

A A A

14龍 35玉 15龍 44玉 17馬 35歩  
14龍 55玉 56歩 同玉 57歩 同玉  
58歩 48玉 49歩 47玉 48歩 36玉  
37歩 45玉 18馬 36歩 15龍 44玉  
14龍 35玉 36歩 45玉 15龍 35歩  
同歩 44玉

(途中図9) 裏筋を回って5筋の歩を下げた

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
歩	歩	歩	銀	と			歩	歩	一
歩		歩							二
	歩	歩	歩	歩	歩		金		三
	歩		歩		王				四
		歩	歩		歩			龍	五
			歩		桂			王	六
歩									七
	歩		歩	歩	歩	桂	歩	馬	八
		歩				歩		歩	九

持駒 歩2  
第2482手目 44玉

A A

14龍 35玉 17馬 45玉 15龍 56玉  
57歩 同玉 58歩 68玉 69歩 77玉  
78歩 86玉 87歩 95玉 96歩 94玉  
95歩 93玉 94歩 82玉 72銀成 同玉  
12龍 62金 18馬 82玉 93歩成 同玉  
94歩 同玉 95歩 85玉 86歩 76玉  
77歩 67玉 68歩 56玉 57歩 55玉  
56歩 44玉 14龍 35玉 36歩 45玉  
15龍 35銀 同歩 44玉 45銀 まで 2571手

(詰上り)

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
雫	歩	歩		と			歩	皇	一
歩			雫						二
	皇	歩		歩	歩	金			三
	歩		皇		王				四
歩		雫	皇		銀	歩		龍	五
	歩		歩	歩	桂			王	六
		歩							七
			歩		歩	桂	歩	馬	八
					歩			皇	九

持駒 なし

【作者のコメント】(原図投稿時)

最近久しぶりに盤と駒を触っていたら、優秀な感じの歩稼ぎ機構を発見して、とりあえず安易に寿限無機構と組み合わせてみたら、金銀を使用しない2503手の協力詰ができました。

長手数を実現する機構としては目新しさはなく、金銀を使用しないということのみが一応主張ですが、どうでしょう？

(金銀は玉方の持駒ではないので、貧乏図式とは言えないと思います。)

【解説】

1975年に発表された加藤徹氏の「寿限無」は協力詰で2万手近い手数を達成した記念碑的な作品でした。その構造は「持駒増幅」機構と「再帰的歩下げ」機構の2本の柱から成っています。「寿限無」の持駒増幅機構は6手で歩1枚を稼ぐというシンプルなものでしたが、本局はその3倍、18手で1歩を稼ぎます。

持駒増幅の具体的方法は上記の解答で「A」で表した手順に示されます。これはピンされた馬と龍の利きで歩合を発生させ、それを歩で取り払っていく仕組みで、一枚の歩を消費して二枚の歩を稼ぎ、全体として1枚の持歩の増加を生み出します。

ただ、持駒増幅機構が3倍の手数になっても全体の手数は3倍になりません。持駒増幅機構が大掛かりになった分、歩下げ機構の筋の数が減っています。「寿限無」が4つの筋を使っていたのに対し、本局は7～9の3筋のみ。また持駒増幅機構で増やす歩の枚数も「寿限無」の6枚に対し、本局では4枚と縮小されています。このため手数自体は却って短くなりました。本局の原図投稿時の作者のコメントが「長手数を

実現する機構としては目新しさはなく、金銀を使用しないということのみが一応主張」と、控えめになっているのも、このせいでしょう。

しかし作者は金銀を使用しないという主張を放棄し、本局を大きく改良しました。本局を解こうとして「寿限無の持駒増幅機構を別の機構にただけ」と思った人は必ず行き詰まり、こう思うはずです。

「歩は下げたけど、どうやったら詰むの？」

具体的には解答手順の途中図8からどうするかです。とりあえず今までと同じように持駒増幅をして9筋から追って82玉の形にしてみると以下、72銀成 同玉 12龍 62金 **35歩** 82玉以下5筋に玉を戻して……、

あれ？ 手が続かない？

今までだと36歩の形で待機していたので、手を継続できましたが、35歩としてしまったので、この後どうにもなりません。いったいどうしたら良いのでしょうか？ 何とか歩を1枚入手したいところですが、その見込みもありません。

ここで馬の利きを歩で止める代わりに利きを逸らすことを考えます。もし17馬の形で待機できれば、12龍に対し62金とした後、再び馬を利かすことで、手の継続が可能になります。

でも、馬の位置を変えたりして大丈夫でしょうか？

この問題を解決する驚愕の手順が途中図8から途中図9に至る86手。持駒増幅のあと最後のサイクルに入る代わりに、今まで手を付けていなかった4筋の「裏道」を通り、4筋に戻ってくるのです。

これで何が成し遂げられたかということ、5筋の歩が57歩から58歩に下がったということです。この形にすること自体は前から可能でしたが、今まではずっと避けていました。58歩型になるということは攻方の龍の位置が5段目に来るということであり、左辺で歩下げを行った後、元の位置に戻ることができないからです。

でも今回は状況が異なります。7～9筋の歩下げが完了して収束に入ると、玉を82まで追った時に「12龍」と龍が移動します。すると、龍の5段目の利きがなくなるので、元の位置に帰って来られるではありませんか！

58歩型のおかげで、途中図9からは17馬・15龍の形で玉を追うことができるようになります。この最大の難所を越えれば、詰上りまで一気呵成に進むことができます。

駒の利き筋を巧みに利用した複雑なパズルは萩絵氏の得意とするところですが、本局も収束に大きな「謎」が仕掛けられており、単なる「寿限無」の応用作にとどまらない、強烈な存在感のある作品になっていると思います。

【短評】

橋圭伍さん

収束へのキーが見えているので解きやすいが道中で後手の歩を使い切る形で進めていく手順が見えにくかったです。

たくぼんさん

歩増幅機構の巧妙さもさることながら、収束前の裏道利用が超難関。狙ってこんな手順が構築できるとは信じられない。

☆ 手順は示されていませんが、一乗谷酔象氏は 2597 手解だったそうです。もし単なる手数の数え間違いでしたら、自己申告で良いですからご連絡ください。解答成績に加算します。

■ 56-13 萩絵香木氏作『BATACO』(正解 4 名)

協力詰 4247 手

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
王				馬		王			一
銀	金					馬			二
	香			桂				皇	三
	金	桂	金	香	歩				四
王		王	桂	歩		歩		皇	五
	歩	歩				歩		皇	六
								王	七
					歩				八
			歩	歩		歩		歩	九
歩	歩	歩				歩	歩		

持駒 なし

【解答】

17 歩 27 玉 28 歩 36 玉 37 歩 45 玉  
 46 歩 56 玉 57 歩 66 玉 67 歩 77 玉  
 78 歩 87 玉 88 歩 97 玉 98 歩 96 玉  
 97 歩 95 玉

(途中図 1) ここから歩下げ機構の開始

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
王				馬		王			一
銀	金					馬			二
	香			桂				皇	三
	金	桂	金	香	歩				四
王		王	桂	歩		歩		皇	五
	歩	歩				歩		皇	六
								歩	七
								歩	八
							歩		九

持駒 なし

第20手目 95玉

『93 金 84 歩 94 金 85 玉 84 金 95 玉』  
 (『』内の 6 手を A とする)

A A A A A A

96 歩 同玉 97 歩 同玉 98 歩 88 玉  
 89 歩 78 玉 79 歩 67 玉 68 歩 57 玉  
58 歩 68 玉 69 歩 77 玉 78 歩 87 玉  
 88 歩 96 玉 97 歩 95 玉

(途中図 2) 5 筋で一つ、6 筋で二つ歩を下げた

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
王				馬		王			一
銀	金					馬			二
	香			桂				皇	三
	金	桂	金	香	歩				四
王		王	桂	歩		歩		皇	五
	歩	歩				歩		皇	六
								歩	七
								歩	八
								歩	九

持駒 なし

第84手目 95玉

A A A A A A A

96 歩 同玉 97 歩 同玉 98 歩 88 玉  
 89 歩 78 玉 79 歩 67 玉 68 歩 56 玉  
 57 歩 46 玉 47 歩 同玉 48 歩 57 玉  
58 歩 66 玉 67 歩 77 玉 78 歩 87 玉  
 88 歩 96 玉 97 歩 95 玉

(途中図3) 4筋で二つ歩を下げた

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
一	龍				馬		王		
二	銀	金					馬		
三		香			桂			皇	
四		金	桂	金	香	糸			
五	王		龍	桂	糸		科		零
六		爵	爵				皇		
七	歩			歩			歩		歩
八		歩	歩		歩	歩		歩	
九							爵		

持駒 なし

第154手目 95玉

A A A A A A A

96歩 同玉 97歩 同玉 98歩 88玉  
 89歩 78玉 79歩 67玉 68歩 58玉  
**59歩** 68玉 **69歩** 77玉 78歩 87玉  
 88歩 96玉 97歩 95玉

(途中図4) 5筋で一つ、6筋で二つ歩を下げた

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
一	龍				馬		王		
二	銀	金					馬		
三		香			桂			皇	
四		金	桂	金	香	糸			
五	王		龍	桂	糸		科		零
六		爵	爵				皇		
七	歩					歩		歩	
八		歩	歩			歩		歩	
九				歩	歩		爵		

持駒 なし

第218手目 95玉

A A A A A A A

96歩 同玉 97歩 同玉 98歩 88玉  
 89歩 78玉 79歩 67玉 68歩 57玉  
 58歩 46玉 47歩 37玉 38歩 28玉

(途中図5) 1筋の歩を下げる直前

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
一	龍				馬		王		
二	銀	金					馬		
三		香			桂			皇	
四		金	桂	金	香	糸			
五			龍	桂	糸		科		零
六		爵	爵				皇		
七						歩		歩	
八	歩			歩	歩		歩	王	
九		歩	歩				爵		

持駒 歩2

第278手目 28玉

(途中図1から途中図5までの258手をBとする)

29歩 17玉 **18歩** 27玉 28歩 36玉  
 37歩 45玉 46歩 56玉 57歩 66玉  
 67歩 77玉 78歩 87玉 88歩 96玉  
 97歩 95玉

(途中図6) 1筋の歩を一つ下げる

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
一	龍				馬		王		
二	銀	金					馬		
三		香			桂			皇	
四		金	桂	金	香	糸			
五	王		龍	桂	糸		科		零
六		爵	爵			歩		皇	
七	歩			歩	歩		歩		
八		歩	歩				歩	歩	
九							爵		

持駒 なし

第298手目 95玉

B

29歩 18玉 **19歩** 27玉 28歩 36玉  
 37歩 45玉 46歩 56玉 57歩 66玉  
 67歩 77玉 78歩 87玉 88歩 96玉  
 97歩 95玉

(途中図7) 1筋の歩をもう一つ下げる

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
銀	金			馬		王			一
銀	金					馬			二
	香			桂				皇	三
	金	桂	金	香	歩				四
王		銀	桂	歩		歩		皇	五
	銀	銀			歩		皇		六
歩			歩	歩		歩			七
	歩	歩					歩		八
						銀		歩	九

持駒 なし

第576手目 95玉

B

29歩 17玉 18歩 16玉 61馬 **25金**  
 17歩 15玉 51馬 **24金** 16歩 同玉  
 17歩 27玉 28歩 36玉 37歩 45玉  
 46歩 56玉 57歩 66玉 67歩 77玉  
 78歩 87玉 88歩 96玉 97歩 95玉

(途中図8) 金鋸で金を24に移動した

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
銀	金			馬		王			一
銀	金					馬			二
	香			桂				皇	三
	金	桂	金	香	歩		皇		四
王		銀	桂	歩		歩			五
	銀	銀			歩		皇		六
歩			歩	歩		歩		歩	七
	歩	歩					歩		八
						銀			九

持駒 なし

第864手目 95玉

(途中図1から途中図8までの844手をC1とする。更にC1の「25金」を「34金」、「24金」を「33金」に置き換えたものをC2とする。更にC1の「25金」を「43金」、「24金」を「42金」に置き換えたものをC3とする。)

C 2

C 3

(途中図9) 金鋸で金を42に移動した

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
銀	金			馬		王			一
銀	金					皇	馬		二
	香			桂				皇	三
	金	桂	金	香	歩				四
王		銀	桂	歩		歩			五
	銀	銀			歩		皇		六
歩			歩	歩		歩		歩	七
	歩	歩					歩		八
						銀			九

持駒 なし

第2552手目 95玉

B

29歩 17玉 **18歩** 27玉 28歩 36玉  
 37歩 45玉 46歩 56玉 57歩 66玉  
 67歩 77玉 78歩 87玉 88歩 96玉  
 97歩 95玉

B

29歩 18玉 **19歩** 27玉 28歩 36玉  
 37歩 45玉 46歩 56玉 57歩 66玉  
 67歩 77玉 78歩 87玉 88歩 96玉  
 97歩 95玉

B

29歩 17玉 18歩 16玉 61馬 **52金**  
 17歩 15玉 16歩 14玉 15歩 同玉  
 51馬 16玉 17歩 27玉 28歩 36玉  
 37歩 45玉 46歩 56玉 57歩 66玉  
 67歩 77玉 78歩 87玉 88歩 96玉  
 97歩 95玉

(途中図10) 金を52に移動した

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
銀	金			馬		王			一
銀	金					皇	馬		二
	香			桂				皇	三
	金	桂	金	香	歩				四
王		銀	桂	歩		歩			五
	銀	銀			歩		皇		六
歩			歩	歩		歩		歩	七
	歩	歩					歩		八
						銀			九

持駒 なし

第3398手目 95玉

B  
 29歩 17玉 **18歩** 27玉 28歩 36玉  
 37歩 45玉 46歩 56玉 57歩 66玉  
 67歩 77玉 78歩 87玉 88歩 96玉  
 97歩 95玉

B  
 29歩 18玉 **19歩** 27玉 28歩 36玉  
 37歩 45玉 46歩 56玉 57歩 66玉  
 67歩 77玉 78歩 87玉 88歩 96玉  
 97歩 95玉

A A A A A A A  
 96歩 同玉 97歩 同玉 98歩 88玉  
 89歩 78玉 79歩 67玉 68歩 57玉  
**58歩** 68玉 **69歩** 77玉 78歩 87玉  
 88歩 96玉 97歩 95玉

A A A A A A A  
 96歩 同玉 97歩 同玉 98歩 88玉  
 89歩 78玉 79歩 67玉 68歩 56玉  
 57歩 46玉 47歩 同玉 **48歩** 57玉  
**58歩** 66玉 67歩 77玉 78歩 87玉  
 88歩 96玉 97歩 95玉

A A A A A A A  
 96歩 同玉 97歩 同玉 98歩 88玉  
 89歩 78玉 79歩 67玉 68歩 58玉  
**59歩** 68玉 **69歩** 77玉 78歩 87玉  
 88歩 96玉 97歩 95玉

A A A A A A A

(途中図 11) 収束に備え、1筋の歩を二つ下げた

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
一	王			馬					
二	銀	金		香		桂			王
三		香		桂					王
四		金	桂	金	香	香			
五	王		王	桂	香		王		
六		歩	歩					王	
七		歩				歩			
八		歩	歩			歩		歩	
九			歩	歩		歩		歩	

持駒 歩7

第4194手目 95玉

**93金 62金**

96歩 同玉 97歩 同玉 98歩 88玉  
 89歩 78玉 79歩 67玉 68歩 57玉  
 58歩 46玉 47歩 37玉 38歩 28玉  
 29歩 17玉 18歩 16玉 61馬 **43角**  
 17歩 15玉 51馬 14玉 **41馬** 15玉  
 16歩 同玉 17歩 27玉 28歩 36玉

37歩 45玉 46歩 56玉 57歩 66玉  
 67歩 77玉 78歩 87玉 88歩 96玉  
**62桂成** 95玉 94金打 まで 4247手

(詰上り)

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
一	王			馬					
二	銀	金		王					
三	金	香		桂	香				王
四	金			金	香	香			
五	王		王	桂	香	王			
六		歩	歩			歩		王	
七			歩	歩		歩		歩	
八	歩	歩	歩					歩	
九							歩		

持駒 なし

【作者のコメント】(原図投稿時)

歩稼ぎ機構と、寿限無っぽい機構と、金鋸を組み合わせた 2297 手詰を作りました。

【解説】

「寿限無」×「金鋸」。

何も考えずに作者のコメントだけ読むと、簡単そうに思うかもしれませんが、少し考えると逆に不可能に思えます。なにしろ「寿限無」も「金鋸」も、どちらも比較的大きな舞台装置が必要なのです。普通の将棋の盤駒で両者を結合することが本当に可能なのでしょうか？

なお、上記のコメントは原図投稿時のもので、この時の手数は 2297 手でした。後に改良されて現在の 4247 手になっています。「BATACO」という命名は、作者曰く「なんかバタバタしてるので」とのこと。ある曲の名前にも掛けているそうです。(http://www.youtube.com/watch?v=YR-x6ODxHEQ)

閑話休題。本局の仕組みの話に戻しましょう。本局の持駒増幅機構は「寿限無」の機構そのままです(作者はこの点に不満を表明しています)が、歩下げ機構はかなり異なります。厳密に言えば、「寿限無」と同じ動きをするのは1筋だけなのです。

作意手順の途中図 1 から途中図 4 をご覧ください。ここは6筋から4筋の歩を下げる機構ですが、歩の枚数の関係で、歩は一つずつではなく、三つずつ下げることができません。と言っても一つの筋では三つも歩を下げられない(あるいは下げても意味がない)ので、二つの筋で



二つと一つに分割して歩を下げます（下がるはずの歩の位置の維持に使われることもある）。これは歩が二枚分過剰な状態で歩下げを行っているためですが、それにもかかわらず非限定なしで歩下げ機構が成立しているのは驚きです。「寿限無」では6・7筋において歩が一枚分過剰な状態での歩下げが行われており、そこで非限定を生じていました。

また、3筋と2筋は歩下げを行えず、この2つの筋で歩を1枚ずつ消費するので、歩の過剰状態は解消されます。その結果、1筋では一度に一つずつ歩を下げる基本的な機構になります。

このような変則的な歩下げ機構を導入したのは、金鋸や持駒増幅機構で大きな領域を使用するためですが、そんな狭い空間でも非限定のない歩下げ機構が成立することを示したのが、本局の最も大きな意義でしょう。

この歩下げ機構により1筋の歩を2つ下げ、その左の歩も全部下げると、金鋸の準備は完了。いよいよ844手サイクルの巨大金鋸が動き出します。金鋸で金を15から42に移動させるところまでは易しいですが、そこから先は少し考えさせられます。42から52への金の移動、馬が51戻るときに1筋の歩を捨てる手順、金を62に移動させるタイミング、金の代わりに合駒として使われる角など、狭い場所を巧みに使ってサイクル数を稼ぎ、且つ収束を破綻なくまとめていることに感心させられます。

話をもう一度歩下げ機構に戻します。

「寿限無」の歩下げ機構は元を辿れば、1974年に発表された浦壁氏の作品に遡ります。（『森茂「龍の顎」補足情報』[http://k\\_7ro.abz.jp/report/agito.html](http://k_7ro.abz.jp/report/agito.html)を参照のこと。）この作品では歩は単純に横一直線に並べられ、歩の下げ方には多くの非限定がありました。「寿限無」は歩を斜めに並べることによって非限定を解消したのですが、これが唯一の非限定解消法ではありません。「寿限無」以外の方法はどんなものがあるか。この作品を作った後、作者はその調査に挑みました。（荻絵氏のメールから抜粋）

BATACOの4~6筋の歩下げ手順みたいな、複数筋を使った完全限定の歩下げ手順が他にも眠っているかもしれないと思ったので、早速これを使って、歩下げ手順の絨毯爆撃をやってみようと思います。

文中で「これ」と呼ばれているのは、神無次郎氏の開発したn f mのこと。通常のf mと異

なり幅優先探索を行うので、手の狭い超長編を高速で検討することができます。ドキュメントが完備していない等の事情により一般公開ではなく、希望者に個別に提供しています。（もし希望があれば神無次郎氏ではなく、筆者宛にまず連絡をください。）

荻絵氏はn f mに与える問題を自動生成するプログラムを、Rubyを使って書き、実際に検討を行いました。条件は以下の通りです（荻絵氏のメールから抜粋）。

歩下げ手順について、そんなに網羅的というわけではないですが、絨毯爆撃を行ってみました。よければ、結果稿などで使って下さい。

次のような絨毯爆撃を行いました。

左上の増幅機構は固定。

1,2筋には、

●●  
●香  
●・  
・歩  
歩・  
・・  
●●

という形のものをおく。これは繰り返しを3回させるため。

ただし、歩の位置が14の時は、成生の非限定をなくすため、香の位置は12ではなく22にする。

3~8筋に関しては、

●  
・  
歩  
・  
●  
か  
●  
・  
歩  
・  
・  
●

のいずれかをおく。

間隔4である部分は連続的になっているようにする

歩の位置は、5段目から8段目までの4通り。

ただし、7筋と8筋はそれぞれ2, 3通り。

また、隣り合う筋では、歩の段は高々1しか違わないようにする。

また、間隔3である部分が隣り合っている場合は、歩の段は違ってはいけない。

玉方の歩の枚数は、ギリギリで香をとれる枚数に設定する。

具体的には、間隔3である部分の個数 + [8筋の歩の位置が87の場合は3, 88の場合は4]。

この条件を満たす図の数は709個。

この条件で全検し、唯一解であるものは40個でした。

筆者はこの絨毯爆撃の資料一式を戴いたのですが、さすがに量が多いので結果稿には収められません。この資料については後日、**Onsite Fairy Mate**に収録したいと思います。

もちろん、この調査結果の中には「BATACO」のパターンも入っています。他にも興味深いパターンがあるので、それが作品化できるか考えるだけでも面白そうです。また、この調査の手法自体も参考になります。「裸玉」や「一色図式」のように絨毯爆撃の効果が自明な分野だけでなく、このような自由度が高そうに見える分野でも絨毯爆撃手法が有効だというのは、目から鱗が落ちる思いです。この「BATACO METHOD」とでも呼ぶべきものが今後どのような成果を生み出すか、楽しみにしたいと思います。

#### 【短評】

#### 橘圭伍さん

最初、適当に進めて数えたら5000手超えていて焦りましたが4~6筋の下げ方以外に短縮する所がなかったので最適化は容易かったです。

昔、雲海氏が持駒増幅+鋸が協力詰で可能と言っていたのが実現された形になるのでしょうか。

☆「持駒増幅×鋸」については、雲海氏が「第10回詰四会フェアリー作品展」の自作コメントの中で「絶対出来ると思うので、どなたか挑戦して下さい」と呼びかけていました。

(WFP第35号参照)

このときは協力自玉詰だったのですが、協力詰で歩下げ機構まで組み込んで実現した本

局は雲海氏の予想を越えた作品ではないでしょうか。

#### たくぼんさん

最短の移動順を確定するまでが時間がかかった。収束への道程は何となく予想がつくので56-12よりは解きやすかった。超長編を解くときはいつもですが、解答書いて手数があった時の喜びは一言で言い現せないくらい嬉しいものです。

#### DD++さん

52金の後の折り返しがこれだとロスしているような感触があって手数数えるまでも不安でした。

☆DD++さんは.ki2形式のファイルでの解答。これなら手数計算の誤りや誤植の心配はないですね。解答のチェックも楽でした。

#### 一乗谷酔象さん

寿限無に受け方の金鋸が入るとは、楽しめる作品でした。

☆前局と比べるとかなり素直な手順なので、正解者4名と、まずまずの成績でした。作るのは難しいが解くのは易しいというタイプの作品ですね。



■ 56-14 一乗谷醉象氏作 (※実質正解者なし)  
推理将棋『堂々巡りの果て』

「全駒で勝ったよ。  
たったの 56 手で詰ましちゃった」  
「ホントかい？どんな将棋だったんだい」  
「動いた金は全て大駒に取られたし、不成の手は 1 回だけだったよ。後手の角が動き出す前に先手の駒打ちが 3 回もあって序盤は先手ペースで進んだ。なんとか、打たれた駒は全部『同 X』で取ったけどね」  
「相手は抵抗したろ」  
「ああ、先手は指し手の順番に不思議なこだわりがあって、先手の大駒着手は必ず歩突きと歩突きの間だった。『歩を突く手、大駒の手、歩を突く手』の順番で指したってことだ。癪に障ったから、歩も大駒も全部『同 X』で取ったけどね」  
「相変わらず君は意地悪いな。それから？」  
「もう一つ、先手の金の着手は必ず『歩を突く手、香の手、金の手』の順番に指してきたんだ。歩も香も金も全部『同 X』で取ったけどね」  
「全く強欲な奴だな。まだあるんだろ？」  
「強いて言えば 4 手目から最後まで後手は『同 X』の手を指し続けたってことかな」

さて、どんな将棋だったのだろうか。

**条件**

- 1) 56 手で詰んだ
- 2) 4 手目以降、後手は『同 X』(相手が直前に着手した駒を取る手)を連続して指し続けた
- 3) 後手の角が初めて動く前に駒を打つ手が 3 回あった
- 4) 先手が駒を着手するときは必ず『歩を突く手、大駒の手、歩を突く手』の順番で指した
- 5) 先手が金を着手するときは必ず『歩を突く手、香の手、金の手』の順番で指した
- 6) 動いた金は全て大駒に取られた
- 7) 不成は 1 回だけ

**【ルール】**

• 推理将棋

将棋についての会話をヒントに将棋の指し手を復元する

**【解答】**

76 歩 32 飛 33 角成 同飛 36 歩 同飛  
16 歩 同飛 26 歩 同飛 13 香成 同桂  
25 歩 同桂 17 歩 同香成 同桂 同桂成  
32 香 同銀 66 歩 同角 75 歩 同角  
96 歩 同飛 23 飛成 同銀 46 歩 同飛  
93 香成 同桂 48 金 同飛生 28 歩 同圭  
同銀 同飛成 85 桂 同桂 97 歩 同桂成  
同桂 同香成 88 桂 同杏 同銀 同龍  
86 歩 同龍 56 歩 同龍 57 香 同角成  
58 金 同馬 まで 56 手

(詰上り)

	9	8	7	6	5	4	3	2	1	
			馬	香	王	香				一
										二
		歩	歩	歩	歩	歩		馬		三
										四
										五
					龍					六
										七
					銀					八
					玉					九

攻方持駒なし

受方持駒 飛角金2銀2桂4香4歩13

**【作者のコメント】**

同々巡りで最後詰みとなる最長数を更新(54手→56手)し、3年越しの謎が氷解しました。当時下記コメントのようにスタイルメイトが56手迄可能なのに、詰みが54手迄しかできず、もどかしく思っていました。

**第 10 回詰四会フェアリー作品展の結果稿 (WFP35 号)より**

「4 手目から後手が『同 X』を連続する手順、推理将棋」を「同々巡り」問題と呼んでいます。同々巡り問題では、最長何手まで手数を延ばせるか？現在のところ、最終形によって手数は異なりますが判明している最長手数は次のとおり。

- 1) 先手玉が詰み：54 手
- 2) 先手玉がスタイルメイト：56 手
- 3) 最終手が王手：58 手

〔補足説明〕

56手の詰形は角を75に置いたまま6段目と8段目で飛を活用する手順でした。手順を並べてみれば難しくなさそうなのですが、「75角で待機する」「23飛の取駒種は馬以外でもよい」ことが盲点となって、これまで気がつきませんでした。

56手でやることはほぼ決まっています、先手が延命のためにすることは

- ・飛角香で後手歩を直接取る(13,23,33,93)
- ・駒打ち精算して駒を補充(1,2,8,9筋)
- ・後手の駒を呼び込む駒打ち(25,32,85,57)

一方後手は、

- ・角(33,)66,75,57成,58(詰)
- ・飛32,(33,)36,16,26,96,46,48(生),28,88,86,56
- ・桂13,25,17,(28) / 93,85,97,(88)
- ・香17,(28) / 97,(88)

これらの組み合わせで手順を構成します。

飛角の経路等ある程度、固定されているとはいえ非限定多数ありますので、条件付けします。

- ・条件3) 後手角が動く前に可能な歩取りは33と13の2回だけだが、25歩～17歩と桂香を呼び込み解決。32に桂が打てないので17歩同香成も限定
- ・条件4) 76歩→33角成→36歩は必然で、96歩→23飛成→46歩を限定
- ・条件5) 46歩→93香成→48金の限定。56歩→57香→58金と収束で香が打てるよう「97同桂成、同桂、88桂、同成桂、同飛成」の精算駒を限定
- ・条件6) 23飛を取る駒は金銀どちらもありうるので、直接表現せず「動いた金は大駒で取られた」と表現。実は「41金は動かなかった」の意味で32銀を限定。
- ・条件7) 不成が必然なのは48飛だけなのでこれを指定。同時に飛の経路が46→48→28→88→86→56に限定される。

参考手順(条件1、2のみを満たす裏手順の一例)

76歩 32飛 33角生 同角 66歩 同角  
75歩 同角 36歩 同飛 96歩 同飛  
26歩 同飛 16歩 同飛 86歩 同飛  
93香生 同桂 85歩 同桂 97歩 同香生  
同桂 同桂成 13香生 同桂 32歩 同金  
23飛生 同金 25香 同桂 17歩 同香生

同桂 同桂成 88香 同圭 同銀 同飛生  
28桂 同圭 同銀 同飛生 48金 同飛生  
46歩 同飛生 56歩 同飛 57桂 同角成  
58金 同馬 まで 56手

### 【解説】

本局は「第10回詰四会フェアリー作品展」で出題された、一乗谷酔象氏の「馬ががんばった堂々巡り」の上位バージョンです。

後手がひたすら「同X」を続けるためには、先手が駒を捨てる必要がありますが、単に自駒を捨てるだけでは駒が足りません。後手の駒も補給した上で、それも捨てることによって枚数を増やします。

後手で駒交換に参加しやすいのは桂と香です。逆に、参加しにくいのが金銀です。実際「馬ががんばった堂々巡り」では金銀が不動のまま最終図に残っていました(WFP第35号をご覧ください)。

「同々巡り」問題では金銀は参加しない…そんな固定観念に縛られていると本局を解くことはできません。条件3)「後手の角が初めて動く前に駒を打つ手が3回あった」が非常に良く効いているからです。後手の飛車は、最初は右側の駒を取りはらう役割を果たしているのですが、これを左辺に回すには、76歩が邪魔です。76歩は75に突いて角で取ります。ですから、角が動く前に飛車は右辺に居たまゝの状態です。これで3回も駒を打つ手を入れるのは不可能にさえ思えます。

しかし方法はあるものです。17で駒を清算してから19手目32香が妙手。働かないはずの銀に働きかける手です(金で取る手は条件6)で排除されます)。この銀は更に23飛成を取る手で働きます。意外な大活躍ですね。

ここを乗り越えれば左辺での桂香を巻き込んだ駒交換を行い、条件に合う手順を求めることができます。唯一の不成を許す条件7)は、34手目48金を同飛生と取る手で使います。王手をしないための不成は、この推理将棋が本質的には「王手義務のない条件付協力自玉詰」であることを思い出させてくれますね。最終盤には自玉に一旦王手を掛けさせる手も入り、気持ちよく収束します。「馬ががんばった堂々巡り」では反則で収束するという、ちょっと抵抗を感じる条件もあったのですが、本作品にはそういった無理もなく、究極の「同々巡り」を純粋に楽しめる作となっていると思います。作者以外の

正解者がいなかったのは残念ですが、手順を鑑賞するだけでも次々と駒を捨て、盤上の駒が消えていく爽快感を感じられるでしょう。

### 【短評】

#### 一乗谷酔象さん

条件の付け方を長編では「何手目にどうした」と道標の条件付けをするのがヒントになりますが、本作は敢えて「何手目着手」条件を入れず、純粋な推理将棋問題としました。条件 3)と 6)の意味付けが気に入っています。

#### 橘圭伍さん (※無解)

もう何か解けないです。  
推理将棋解答引退する時期かな……

#### たくぼんさん

解けませんでした。56 手解は見つかるのですが、条件がクリアできません。

76 歩 32 飛 33 角成 同飛 36 歩 同飛  
16 歩 同飛 26 歩 同飛 13 香成 同桂  
24 歩 同歩 25 歩 同歩 66 歩 同角  
75 歩 同角 96 歩 同飛 25 飛 同桂  
46 歩 同飛 17 歩 同香成 同桂 同桂成  
28 香 同成桂 48 金 同飛生 28 銀 同飛成  
93 香成 同桂 85 桂 同桂 97 歩 同桂成  
同桂 同香成 88 桂 同成香 同銀 同龍  
86 歩 同龍 56 歩 同龍 57 香 同角成  
58 金 同馬 迄 56 手

条件満たしていないので手順前後はかなりありますが、この形しか浮かびません。  
しかし角の動きの前に駒打 3 回がどうしてもクリアーできないので他の形があるのかもしれない。

☆ 惜しかったのはたくぼんさん。

どうやら 3)の条件で詰まってしまったようですね。後手の金銀が動かない、ある意味正統派の手順です。2 筋に歩の連打をするのが面白い手なので、作意 19 手目の 32 香が却って見えにくくなったのかもしれない。

### 【総評等】

#### 変寝夢さん

こりゃきついですがな。  
もちろん解説がですよ。頑張ってください。

☆ きつかったです。解説もへろへろです。  
何とか体裁だけは整えたつもりですが…

#### たくぼんさん

橘作キルケで時間がかかってしまいました。  
萩絵氏復活はうれしいことです。  
解答にも力が入ります。

#### DD++さん

「王手が 9 割」再出題の方に挑んでいたためあまり手を出せず。超長編は非常に興味をそそられましたが、長い方だけしかやる時間が取れずでした。橘さんの面白そうですし、一乗谷さんの推理将棋も手を出したかったのですが……。

☆ 「王手が 9 割」は私も解きたかったのですが、諸事情により見送りました。次号の「個人作品展」も欠席の予定。その代わり「氾濫」の結果稿をしっかりと書きたいと思います。

### 追記 (11/23)

一乗谷酔象氏から 56-12 及び 56-14 について以下のコメントを戴いたので、追記します。

#### ■ WFP56-12 の手数確認の件

ご配慮ありがとうございます。

56-12 の方、どうしても手数オーバー(2597 手)でした。確認しましたところ、別手順でした。その後、4 手だけ短縮し、2593 手解ができましたが、やはり手数オーバーです。

手順を比べてみたところ、収束部分が異なっております。

#### 収束部分のポイント

- (ア) 5 筋の歩の消費を 1 枚減らさないと歩が足らなくなる。
- (イ) そのため、47-36 の裏道を利用する。

これら二点は同じでしたが、

- (ウ) 5筋の歩下げではなく4筋の歩下げ
- (エ) 47→36ではなく、36→47のルート
- (オ) 収束部分で歩打の位置は、作意(58,69,94,95,36)に対し、37,58,69,94,95

のように異なっております。一見破調のような収束部分が怪しそうな感触はありましたが、4筋下げ手順が先に浮かび、5筋下げの収束には気づきませんでした。

参考までに超過手数解をあげておきます。

(途中図8 2396手目44玉)から  
 A A A B(72手/計2468手)  
 56歩 同玉 57歩 同玉 58歩 \*48玉  
 \*49歩 \*58玉 \*59歩 57玉  
 (\*48玉～\*59歩の替わりに、  
 『58同玉 59歩 48玉 49歩』でも可)  
 58歩 56玉 57歩 45玉 15龍 35歩  
 同歩 44玉 (18手/計2486手)  
 A A A (54手/計2540手)  
 14龍 35玉 17馬 36玉 37歩 47玉  
 48歩 57玉 58歩 68玉 69歩 77玉  
 78歩 86玉 87歩 95玉 96歩 94玉  
 95歩 93玉 94歩 82玉 72銀成 同玉  
 12龍 62金 18馬 82玉 93歩成 同玉  
 94歩 同玉 95歩 85玉 86歩 76玉  
 77歩 67玉 68歩 56玉 57歩 55玉  
 56歩 44玉 14龍 35玉 36歩 45玉  
 15龍 35銀 同歩 44玉 45銀  
 (53手/計2593手) まで

■56-14

正解者ゼロはちょっと残念です。  
 たくぼんさんの56手解は、飛を23以外の25で捨てる手順で驚きです。この手を知っていたら、最終形がすっきりしているのでそれを作意にしたかもしれません。

以上



# Fairy of the Forest #37解答

- 2013年08月20日：課題発表：(協力詰)
- 6種以上または2種以下の着手駒
- 2013年10月15日：投稿締切
- 2013年10月20日：出題
- 2013年11月15日：解答締切
- 2013年11月20日：結果発表
  
- 結果発表

【今回の解答者】(敬称略、到着順)  
 (○は全題正解者)

- 占魚亭、○神無七郎、幻想咲花、
- 隅の老人B、○たくぼん

☆密かに解答増を見込んでいたのですが、初解答は幻想咲花さんのみ。うーむ。

■ 37-01 神無太郎 協力詰 5手

9 8 7 6 5 4 3 2 1

							王	王	一
							歩		二
							銀		三
									四
									五
									六
									七
									八
									九

持駒 金3

21 金 同金 12 金 同金 21 金 まで 5手

(詰上り図)

9 8 7 6 5 4 3 2 1

							金	王	一
							歩	王	二
							銀		三
									四
									五
									六
									七
									八
									九

持駒 なし

幻想咲花－金づくし。単純。

隅の老人B－総ての着手に金が絡む。なるほどこれで課題の意味を理解、です。

たくぼん－金は1番創りやすそう。

☆作者が最初に送ってきたのは、04の香だったんですがね。

占魚亭－回文詰ですね。

七郎－回文詰。この条件だとそうなり易いのかもかもしれませんが。

☆次の02も構成的には似ていますね。

■ 37-02 神無太郎 協力詰 5手

9 8 7 6 5 4 3 2 1

								王	一
							銀	王	二
								歩	三
									四
									五
									六
									七
									八
									九

持駒 銀

21 銀成 同銀 22 銀 同銀 12 銀  
 まで 5手

(詰上り図)

9 8 7 6 5 4 3 2 1

								王	一
							銀	銀	二
								歩	三
									四
									五
									六
									七
									八
									九

持駒 なし

幻想咲花－銀づくし。微妙。

隅の老人Bーうん、今度は銀か、成る程、なるほど。

占魚亭ー基本の頭銀。

たくぼんー22 銀が詰将棋並みの捨駒で感心。

☆駒の性質上、金銀は接近戦になりますね。

七郎ーこれはこの条件（着手駒一種5手）の最少駒数？

☆使用駒6枚。確かにこれ以上駒を減らすのは無理かも。

占魚亭ー攻方桂がいた場所を受方桂で埋めるのが面白い。

七郎ー連続開き王手に連続合駒。このシリーズの中では一番面白いですね。

☆好評でした。小駒1種着手の中では、手順の面白さは本作が一番でしょう。

たくぼんーこれだけのと金配置が必要とは桂は難しいんでしょう。

☆歩もそうなのですが、開き王手を含むと余詰防止が大変そうですね。

■37-03 神無太郎 協力詰5手



持駒 なし

32 桂成 24 桂 同桂 36 桂 17 桂  
まで5手

(詰上り図)

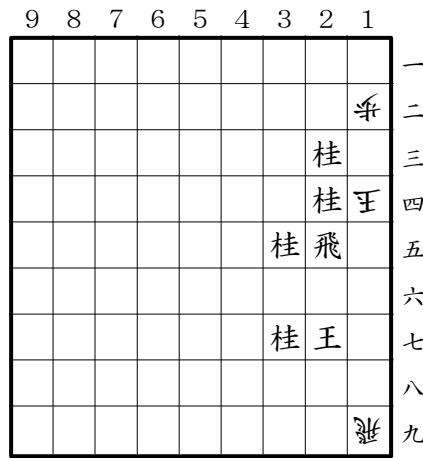


持駒 なし

幻想咲花ー桂づくし。これはちょっと面白かった。

隅の老人Bー2度の桂合、うまい、うまい。

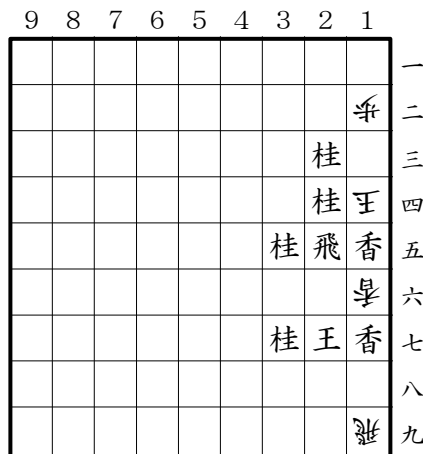
■37-04 神無太郎 協力詰5手



持駒 香

18 香 17 香 同香 16 香 15 香  
まで5手

(詰上り図)



持駒 なし

幻想咲花ー香づくし。まあまあ。

隅の老人Bー今度は香合が2度、最初の香合がピカリかな。



☆2手目香合は、最終15に打つ詰駒を入手するため。

七郎ー逆王手を掛けないための4手目香合。渋い限定合駒。

☆この理屈で4手目角銀合を割り切っていますね。金合は15にも利いてしまうし。

占魚亭ー仕方がないと分かっていますが、12歩が省ければーと思ってしまいます。

☆飛合や桂合も出尽くしていますが、歩合が残されています。ということで、12歩の配置はやむを得ません。作者は「11の方がよいか？」とも言っていました、これは微妙。

たくぼんー成も生も無い手順表記でこれは完璧。

■37-05 神無太郎 協力詰5手

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
皇	科	馬		龍		馬	科	皇	一
				王					二
			歩		歩				三
		角		歩		角			四
			香		香				五
									六
									七
									八
香	桂	銀	金	飛	金	銀	桂	香	九

持駒なし

42歩生 43歩 62歩生 63歩 53歩成  
まで5手

(詰上り図)

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
香	桂	銀		龍		銀	桂	香	一
			歩	王	歩				二
			香	と	香				三
		角				角			四
			香		香				五
									六
									七
									八
香	桂	銀	金	飛	金	銀	桂	香	九

持駒なし

幻想咲花ー歩づくし…これは雑かなあ。

占魚亭ー初形を見て、一瞬ギョッとしました。

☆歩で王手してそれを歩で取るというわけにはいきませんからね。開き王手～合駒という構成にせざるを得ないため、制約が厳しすぎるのでしよう。受方持駒を制限すればもっとスッキリ表現できるのですが、課題との関係上それも躊躇される。ということで、花駒満載の図になったと推察されます。

たくぼんー配置がきれいで歩生もポイント。

隅の老人Bー左右対称、2度の歩生に2度の歩合。

☆初手は62歩生から入っても可です。配置も手順も左右対称ですね。

七郎ー「歩のみ」の場合、理論上の上限は9手？ この5手詰を見ても、実際に作るのは相当大変そうですが。

☆歩は他の駒より数が多いので、そこに可能性があるのではと考へ、作者にも7手以上をリクエストしたのですが……。やはり実際に作るとなると、制約が大きすぎるのでしょうか。

■37-06 小林看空 協力詰7手

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
					皇				一
			皇	香		金	馬		二
						科			三
						王			四
				桂	皇		香		五
			王			歩	馬	龍	六
						桂		角	七
									八
									九

持駒 飛

64飛 44角 33金 同銀 46桂 同香  
35歩 まで7手

(詰上り図)

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
					皇				一
			皇	香					二
						銀			三
			飛	皇	王				四
				桂		歩	香		五
			王	皇			皇		六
					桂		角		七
									八
									九

持駒なし

幻想咲花—何かよくわからん手順やなと思ったら、そういうことね。一気通貫という作品があったのを思い出した。

七郎—看空さんなら「順列7種」をやってくれらると思ってました。

隅の老人B—なにが始まるかと思ったら、飛から歩までの逆？順列着手。2手目の角引き、最後は突き歩、上手く出来てますね。

☆攻方・受方の着手駒をご確認ください。飛・角・金・銀・桂・香・歩の順になっています。つまり、降順の順列七種詰ということです。

占魚亭—密かに線駒がいい仕事をしています。

☆線駒とは？ 初耳です。

たくぼん—解くのは簡単なのですが、逆王手防止の構成に感心しました。

☆攻方王に王手がかかっているの、初手は必然です。2手目の角移動合は攻方17角の利きを通す意味。3手目で桂を入手。そして、その桂を46に打ち捨てますが、これは受方16飛の横利

きを遮るためです。最後は17角の利きを活かして突歩まで、鮮やかなエンディング。

■37-07 小林看空 協力詰7手

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									一
									二
						桂			三
					銀		皇		四
				皇	桂	王	桂		五
				桂	皇		歩		六
							王	角	七
									八
									九

持駒なし

36歩 28香生 58桂 同銀成 57金 同角生 47飛 まで7手

(詰上り図)

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									一
									二
						桂			三
					銀				四
					桂	王	歩		五
				桂	皇	飛			六
							王	皇	七
									八
									九

持駒なし

隅の老人B—今度は歩から飛までの順列着手。2度の不成がお気に入り。

七郎—こちらは昇順の順列7種着手。成生の使い分けが作品価値を上げていますね。

占魚亭—1回目、4手目銀不成として失敗(苦笑)。

☆初手は57金とはできないので、王手はこれしかありません。2手目の香生は王手にしないため。3手目に前局同様、逆王手防止の桂捨が出てきますが、これには同銀成と応じ、6手目は同角生と応じます。どちらも47地点に利かさないうようにする意味です。そして最後はその47に飛を打ってエンディング。

幻想咲花—引っくり返って歩→飛。ただ、どちらももう少し綺麗に創って欲しいかな…贅沢でしょうか？

たくぼん—やはり駒取りなしでは難しいんでしょうね。

☆前局も本局も駒取りがありますね。制約が大きすぎてやむを得ないのでしょう。

■37-08 たくぼん 協力詰 15手

											一
											二
											三
											四
							銀				五
											六
							王				七
							銀	銀			八
							銀				九

持駒 なし

46 銀 56 玉 45 銀 47 玉 36 銀 56 玉  
47 銀 67 玉 58 銀 77 玉 78 銀 68 玉  
69 銀左 59 玉 68 銀打 まで 15手

(詰上り図)

											一
											二
											三
											四
											五
											六
											七
							銀	銀	銀		八
							銀	王			九

持駒 なし

たくぼん—1作だけ毛色が違ってますね(笑)手順はちょっと意表をつく順ではないかと思っています。

☆本作だけ単品で、着手駒2種。よくある銀による追い回しですが、作者の思惑通り、苦戦の声多し。

隅の老人B—銀と玉とのダンスだが、これが意外と難しい。詰上がり図を得るまでに、あちこち、うろうろ、ああ草臥れた。

占魚亭—前半の銀繰りに苦戦しました。

幻想咲花《無解》—手順限定を前提に考えると 66 銀 46 玉 57 銀 37 玉 48 銀 28 玉の展開しかなさそうなんだけど、解けない…

七郎—今回の作品展で唯一苦戦した作品です。手順の唯一性を仮定すると、48 銀を取る手順は除外できるのですが、この筋を切り捨てるのは感覚的に困難が伴います。そのおかげで、序盤のミニ銀鋸が一層意外に感じました。

☆48 銀ではなく、58 銀を取るのです。確かにこの追い方は感覚的に不利感を伴います。最後は 69 銀も取って相手玉座での詰上り。作者の狙いは成功したと言ってよいでしょう。

【総評】

たくぼん—長編が無かったのはちょっと残念でした。

七郎—条件のおかげで解図は易しいですが、作る側は困りますね。条件の適用を攻方あるいは受方だけに絞ってれば、もっと自由な表現が可能だったと思います。

☆この条件だと長編は無理でしたか。もう少し考慮が必要だったようですね、

隅の老人B—手数短い協力詰、これならB爺でも詰められるかもで、解図を開始。08を除いて、他の7題は短時間で解図できました。そして思ったこと。たぶん、今回の課題は作るのは難しかっただろうが、解くのは易しいな、です。

秋の夜長に協力詰を楽しむ、好局が8題解けて嬉しくなりました、感謝。

☆喜んでいただけて良かったです。もう少し解答者が増えてほしかったのですが……。

## Fairy of the Forest #38課題発表

---

- 2013年11月20日:課題発表:(協力詰)  
攻方王または受方同一駒(玉を除く)  
の複数回移動(途中成るのも可)
- 2014年01月15日:投稿締切
- 2014年01月20日:出題
- 2014年02月15日:解答締切
- 2014年02月20日:結果発表

### ■ 課題発表

同じ駒を2回以上回動かすというだけならばあまりにも簡単そうなので(例えば、37-08の攻方55銀が該当)、これに攻方王または受方駒という制約を加えます。

前回出題作で言えば、37-01の受方31金や37-02の受方12銀がこの条件を満たしています。ただし、受方玉の複数回移動は普通でしょうからこれは除くことにします。一方、攻方王の複数回移動は容易ではないでしょうから、これは含めることにします。

もちろん移動回数は多いほどよいですし、連続移動回数にチャレンジする方向もあるでしょう。また、複数駒の複数回移動も考えられるところです。

多くの方々のご投稿をお待ちしています。

(投稿先)

→酒井博久(sakai8kyuu@hotmail.com)

# 推理将棋第7 1回出題解説

担当：DD++

出題：平成24年9月23日  
 解答締切：平成25年10月20日

先月に続いて台風26号27号コンボのせいでバツタリ。今年は夏が異常に暑くて秋は台風だらけ、冬は寒さが厳しくなる予報と、何かと気象が荒れ気味ですね。来月こそ本来のスケジュール通りに原稿を執筆できればいいのですが…

詰上り図

	9	8	7	6	5	4	3	2	1	
皇	科	爵	丞	王	馬	馬	科	皇		一
	飛		丞	爵						二
歩	歩	歩	歩	歩	歩		歩	歩		三
							歩			四
										五
		歩								六
歩	歩		歩	歩	歩	歩	歩	歩		七
								飛		八
香	桂	銀	金	王	金	銀	桂	香		九

持駒なし

## 7 1-1 初級 山葵茶漬けさん作 マイペースな将棋指し 9手

「あれ、あそこの対局もう終わり？」  
 「なんでも、先手が2手続けて空成して9手で詰んだらしい」  
 「お、後手が2手続けて同じ駒を動かしたのが敗因とか聞こえるな」  
 「お互い2手続けてって、どっちもマイペースだねえ」  
 「しかし、一体どんな将棋だったんだろう」

さて、どんな将棋だったのだろうか？

(条件)

- ・ 9手で詰み
- ・ 先手は2手続けて空成の手を指した
- ・ 後手は2手続けて同じ駒を動かした

### 出題のこぼ (担当 DD++)

先手が成る駒はすぐにわかりますね。

#### 追加ヒント

2回続けて動くのは41金。角空成のために逃げながら先手の手が届かない逃げ場を塞ぎます。

### 推理将棋7 1-1 解答

▲7六歩 ▼3四歩 ▲2二角不成 ▼4二銀  
 ▲3二角 ▼5二金左 ▲3一角成 ▼6二金寄  
 ▲4一角成 まで9手。

2手続けて空成。珍しい条件です。それもそのはず、9手でこれをできる手順はほとんどありません。「76歩、34歩、22角不成」で始めて5手目に角打ち、後手が必死に駒を逃がして7手目9手目で連続空成が唯一条件を満たせる手順なので、この問題はこれをベースに後手の手順を整えるだけです。

さて、後手は既に34歩を指していて、残り3手中に連続着手があるので動かせる駒は2枚だけ。先手は角以外取れないのですからこの2枚で守備駒外し+空所確保+逃げ道塞ぎをする必要があります。

いくつか目につきやすい手順はありますが、何パターンか試していると二段目の利きを外すのはほぼ不可能なことで玉を移動させている余裕などないことがつくでしょう。そうなれば22の角を31へ成って打った角を41へ成る形にたどり着くのはそう遠くないはず。あとは62地点を塞ぐことと31銀のどけ方を間違えないように手順を並べて完成です。

それではみなさんの短評をどうぞ。

NAO 「第一感では2手動くのが玉。ハズレました。42銀のタイミングが微妙ですね。」

■32玉か72玉でしょうか。32玉は一見有力そうですが馬だと強すぎて逆に使いづらいですよ。

中村雅哉 「方針が立てやすく客寄せに最適。」

■ こういった初級がたくさん投稿されると嬉しいんですがなかなかうまくいかないもので。

EOG 「連続空成の条件が考えさせてくれる。」

■ ただの連続駒成なら後手駒を取って排除できるので楽に達成できるんですけどね。

斧間徳子 「76 歩、34 歩、22 角生の後、角打→角成→角成とするしかなく、あとは詰み型を考える問題。第 1 問にふさわしい軽好作。」

■ しかし詰み形の候補が豊富なのであと一步で解けそうという状態で足踏みになるという。それもまた大道棋的な面白さがあるといえるのかもしれない。

チャンプ 「一つ目の条件で最初の 3 手は確定するものの、その後の 6 手が 2 つ目の条件にことごとく行く手を阻まれ大苦戦。私にとっては、易しい条件+簡素な条件=難問となりました(苦笑)」

■ さては 32 銀にはまりましたね？

隅の老人 B 「空成り、でも、最初は駒取り、ずるいずるい。」

■ 駒取りと駒成を小分けにすることで巨大利益をひっそりと得る大人のやり口。

S.Kimura 「空成り 2 回にちょっと悩みました。馬が 2 枚並ぶのは見たことがないような気がします。」

■ 普通この順は 22 角成から 23 馬と引いたりあるいは 14 角と打たせたり、紐を遠くに置くように作りますから、31 馬は普通すぎて逆にほとんど使われませんね。

はらたっと 「金銀は避難したのに王は間に合いませんでした。」

■ 62 金寄でなく 62 玉と 3 人が 1 回ずつ逃げたらかなり攻めづらかったのに、臆病な金の大量オンボです。

しまぎろう 「31 角成を空成にするための 42 銀が面白かったです。」

■ しかも 32 銀だとダメというのも不思議ですよ。その場合どうしても途中で余計な王手がかかってしまって。

渡辺 「条件が綺麗。52 玉を想像していたために意外と梃摺った。」

■ 手数+2 条件でも条件が対になっていると見栄えはいいですね。

たくぼん 「逃げていく金と角成 2 発。玉が不動なののもちょっとユーモラス」

■ 金さえいなくなれば意外と玉座は脆いのです。

変寝夢 「3 手目 2 二角生、5 手目 3 二角指定で 50 万局面 4 分少し。3 手目 2 二角生指定のみで 8800 万局面 15 時間でした。2 連続空成の条件設定が旨いと思う。」

■ かなり荒い見積もりですが 50 万×41 箇所=2050 万局面くらいが 5 手目に他の場所に角を打った局面の読みで、残り 6700 万局面が 5 手目に角を打たなかった読みでしょうか。だとすると「3 手目 22 角不成、5 手目角打ち」でやるのが確実性と計算時間のバランスとして最適かもしれませんね。

はなさかしろう 「馬の並びが美しい。後手がかわしてかわして手数を合わせる感じですね。」

■ 題名とは裏腹に後手はけっこう必死な感じがしますね。

chemical 「馬が 2 枚並ぶことって珍しいですね。」

■ 斜めに並ぶことはそれなりにありますが横は珍しいです。そして縦は 9 手だとさらに珍しくなりますね。

占魚亭 「角から逃げる金銀。」

■ そして置いてけぼりの王様。

鈴木康夫「簡単な条件で見事に限定されているのが良いです。」

■一見後半が決まりきらないように見えてギリギリ足りています。

諏訪冬葉「最初の5手はすぐ分かったのに先に金を動かしてはまりました。」

■前から考えるとこの銀は確かに思いつきづらいかも。

やまかん「ヒントを見るまでは3手目22角不成も盲点で33角成としてどうやっても不可能じゃないのかと思いました。ヒントを見てからは金の動きは予想通りでしたけど42銀が盲点で相当考えてしまった。頭の中で考えてるときに32銀～31角打を閃いてやったと思ったら王手があって、がっくしでした。それにしてもこの問題は条件もシンプルで好作ですね。」

■悩ませてくれるけどそれが嫌な感じではない、という感じでしょうか。

正解：18名

EOGさん S.Kimuraさん 斧間徳子さん  
chemicalさん しまぎろうさん 鈴木康夫さん  
隅の老人Bさん 諏訪冬葉さん 占魚亭さん  
たくぼんさん チャンプさん NAOさん  
中村雅哉さん はなさかしろうさん はらたつとさん  
変寝夢さん やまかんさん 渡辺さん

### 7 1-2 中級 DD++作

成大駒のカニ歩き

11手

「よし、この将棋2回目の龍の手で横移動だ」  
「では、この将棋2回目の馬の手も横移動だ」  
「あれ、11手で詰んじゃった？」  
「そういえば飛車の手も角の手も2回だったね」

さて、どんな将棋だったのだろうか？

(条件)

- ・11手で詰んだ
- ・龍も馬も2回目の着手で横に動いた
- ・飛車の手も角の手も2回だった

出題のこぼ (担当 DD++)

11手で龍を2回も動かす方法はかなり限られます。

追加ヒント

42龍と引いた位置が一番都合がいいのに横移動しなければならない、となればどこへ行くかは簡単ですね。

推理将棋 7 1-2 解答 担当 DD++

▲7六歩 △4四歩 ▲同角 △4二飛  
▲5三角成 △4七飛成 ▲3一馬 △4二龍  
▲3二銀 △6二龍 ▲4一馬 まで11手。

詰上り図

	9	8	7	6	5	4	3	2	1	
一	皇	科	將	王	馬		科	皇		
二			龍				銀	馬		
三	歩	歩	歩	歩			歩	歩	歩	
四										
五										
六			歩							
七	歩	歩		歩	歩		歩	歩	歩	
八								飛		
九	香	桂	銀	金	王	金	銀	桂	香	

持駒 金歩2

龍と馬が少なくとも2回着手される、というのはなかなかハードな条件。馬はとにかく龍はまず作るのすら最短で6手ですから、まずは最短で龍を作るのを目指す必要があります。6手で作る順は「76歩、32飛、33角(成)、王手対処、角(馬)移動、37飛成」か「76歩、44歩、同角、42飛、角移動、47飛成」のどちらか。いずれの手順でも後手はここから龍しか動かさせません。

さてでは先手が5手目を含めた残り4手で詰ませられるのはどちらでしょう。一見前者の方が詰ませやすそうに見えますが、こちらはもう1枚の攻め駒の入手がネック。33から取れるものだと22角が目につきますが、これだと馬が玉

から遠ざかる上に4手目に指した王手対処も邪魔になってギリギリ間に合いません。特に龍の残り2手が自陣に引いても嬉しくないのが痛いですね。馬を43や23に動かしても条件から金は取れませんし51馬などでは王手になってそもそも龍が成れません。33角(馬)という手は実は後手が有効手を指しにくい状況だと攻めに適さないのです。

というわけで正解は後者。これだと5手目に角を53へ成れるので、71馬と取った銀を72へ打ち、龍に42を塞いでもらって61馬まで。42を塞ぐ駒が生飛や金銀なら先手6手後手1手または先手5手後手2手という偏った手数になるものの合わせて有効手7手で済む早い攻めです。今回はその42の駒を無駄手を使って龍でやろうというわけですね。

ところがここで龍の条件で問題発生。47から2回龍を動かして42に行く場合、どうやっても2回目が横移動になりません。というわけでここで大胆な発想。53の馬を作った段階で関係する駒はほとんど左右対称配置になっています。よってここから先をまるごと左右反転して31馬から攻め、龍は42経由で62へ。これでちょうど詰みになって、作意となります。

1条件でありながら龍のために左右逆を要求されるなかなか面白い順でかなりの自信作、のつもりだったのですが、しかし1つとても単純な見落としがあって不完全でした。左右反転した結果41馬の後ろがずーっと自陣まで空いているため、32銀の代わりに48飛という奇手が成立。中村雅哉さんからご指摘の他、修正後も飛の方で解答される方がちらほら。修正は元の作意が銀だったのでそちらで修正しましたが、飛の方が手順はおいしかったですね。なお修正後に、

中村雅哉「手数+1条件での修正案として、作意は若干変わりますが以下の案はないでしょうか？」

(1) 11手で詰み

(2) 駒が31、41、42の3か所に成った。

作意：76歩、44歩、同角、42飛、53角生、47飛生、31角成、42飛成、48飛、62龍、41飛成まで。

という案をいただきました。おそらく成立していると思います。そして私も同じことは頭をよぎったのですが、解答募集をしている性質上作意が変えられないため泣く泣く断念しました。

それではみなさんの短評をどうぞ。

NAO 「1テンポずらせてから馬を寄るため71でなく31銀を取る。32銀打が珍しい手。」

■33馬+32銀打ちという形は以前パラで出したことがあります、32銀をひも目的というのは確かにあまりない？

中村雅哉 「9手目非限定(余詰)と思います。」

■はい、ご指摘の通りでした。申し訳ありません。

EOG 「龍は横に一マス以上動けるんだった。成ったあと2回づつ動くという条件がちょっと分かりにくい。」

■推理将棋では成駒と生駒は特に注釈がなければ別種扱いなのです。場合により念のため注意書きをすることもありますが……。

斧間徳子 「龍を横に動かすため、71馬~61馬ではなく31馬~41馬とするところがにくい。やはり1条件作品は簡潔でいいですね。」

■あとはそれで完全だったら文句なしでしたが、残念ながら欠陥品でした。

チャンプ 「普通に考えれば馬は先手、竜は後手になるので、馬の横移動が最終手、竜の横移動が詰み形を演出する一手と予想した上で解き始めたので悩まずに済みました。発見は出来ませんでした。余詰め順は全く違う感じのような気がしています。」

■慣れていけばすぐ見える形ですよ。が、それゆえに自陣の駒なんて考えから除外されがちです……。

S.Kimura 「玉の退路を断つために龍が戻ってくるのが好手(?)ですね。」



■推理将棋の好手はたいてい好手と表現するのに違和感がありますよね。

はらたつ「わざわざ強力な龍にしたのにこの有様。」

■きっと4筋6筋両方突破すれば強力だろうと思ったんですよ。

渡辺「美しい条件ですね。後半は48飛を防ぐ意味で角の手2回は言わなくても良い気がしますが、良くも悪くも大道棋の花駒のような感じがします。」

■はい、追加条件はそういう狙いでした。1条件でなくなる時点で追加条件が短いことにあまり意味はなく、ならばいっそということで。

たくぼん「作意はすぐ分かったが非限定箇所がよく分からないなあ」

■担当もがつつり検討したくせに気づきませんでした

はなさかしろう「この筋が第一感。やはり銀より飛で行きたいですね。」

■飛があることに先に気づいていれば……。

占魚亭「6手目までは一本道。竜を自陣に戻すことに気付けば万事解決。」

■あら、33角成には目もくれずですか。

鈴木康夫「飛(龍)が後手の駒であることは直ぐに判りましたが、先手角は33から侵入させる物とばかり思って苦心しました。綺麗な手順ですね。」

■この龍の動きはかなり独創的だと思っています。

諏訪冬葉「飛車角を早く成らせるなら44歩は定番」

■ですね。33角成はその後が続けにくい。

やまかん「ヒントを見なければ絶対解けなかつ

たです。序のパックマン風の手順が思いつくかどうかですね。」

■ベテランになると龍と聞くととりあえず44歩を突くようになります。で逆に3筋の問題で煮詰まったり。

-----  
正解：14名 双方解：中村雅哉さん

EOGさん S.Kimuraさん 斧間徳子さん  
鈴木康夫さん 諏訪冬葉さん 占魚亭さん  
たくぼんさん チャンプさん NAOさん  
中村雅哉さん はなさかしろうさん はらたつ  
とさん やまかんさん 渡辺さん

-----  
**71-3 上級 チャンプさん作**  
**少年の将棋は？(その10) 12手**

少年A「君の将棋早く終わったみたいだけど、どんな将棋だったのか教えてよ。」

少年B「どんなと言われても、12手で詰ませて勝っただけだよ。」

少年A「それだけでは何も分からないよ。」

少年B「仕方がないな一、成る手は無かったけど1筋へ3種の駒の不成があったよ。」

少年A「それだけ？せめて初手ぐらい教えてよ。」

少年B「初手は7筋の手だったね。」

さて、どんな将棋だったのだろうか。

(条件)

- ・12手で詰み
- ・初手は7筋への着手
- ・成る手は無く1筋へ3種の駒の不成があった

-----  
出題のことば(担当 DD++)

先入観にとられると鍵となる1手はいつまでも見えません。

追加ヒント

不成を指し終えた角を詰みまで残したい、と  
思ってしまうと迷宮入り。

推理将棋 7 1-3 解答 担当 DD++

▲ 7 八飛 ▽ 3 四歩 ▲ 4 八玉 ▽ 4 四角  
 ▲ 3 八玉 ▽ 1 七角不成 ▲ 同 香 ▽ 1 二飛  
 ▲ 1 三香不成 ▽ 同 飛 ▲ 2 八玉 ▽ 1 八飛  
 不成まで 12 手。

詰上り図

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
皇	科	爵	王	王	爵	科	皇		一
									二
歩	歩	歩	歩	歩	歩		歩		三
						歩			四
									五
									六
歩	歩	歩	歩	歩	歩	歩	歩		七
	角	飛					王	皇	八
香	桂	銀	金		金	銀	桂		九

持駒 角歩

初手 7 筋はほぼ情報にならないので 1 筋 3 種不成に頼って解くことになりませんが、これがまた厄介。ただ 3 種不成を指すだけならいろいろ手段がありますが、端なので簡単には詰みに結びつかない手ばかりになります。その折り合いをどうつけるかの発想力が問われる問題、というわけです。

ではとりあえず 1 筋不成にどんな可能性があるか考えましょう。初形から速そうなのは歩桂角の 3 種ですね。歩はまっすぐ進めて 4 手。桂馬も歩突きからの三段跳ねで 4 手。角の場合は先手角だと 76 歩のあと 3 回動いて 4 手ですが、後手の場合は 34 歩 44 角 17 角不成で 3 手。純粋に詰みに向かうための手数を残したいと考えると、最初は後手角で決まりですね。

では 2 番目は。先手の歩や桂だと 3 手目から始めて 9 手目で 2 回目の不成が指せますが、ちょっと待ってください。これは 2 回目の不成ですから、最初の不成とは少し事情が変わっています。そう、17 の歩が角に取られているので、これをどかして 13 香不成なら先後合わせて 2 手だけでいけるのです。3 回目もこれと同じ理屈で後手が 12 飛車を回って 3 手か、既に 33 が空いているのでそこから桂を跳ねて 3 手。合計 8 手なので詰み用の手は 4 手残せそうです。

しかしこれ、一見後手の手数が合わないように見えます。角不成に 3 手、飛か桂の不成に 3 手。先手香不成のために角を逃がす手はどこへ？これにコロンブスの卵のような答えをできるかがこの問題最大の障害。

角を逃がす手が指せない。だったら逃がさなければよいのです。6 手目 17 角不成に先手が同香！ これでも無事「先後合わせて 2 手」で 9 手目 13 香不成を実現できるのです。角がなくて攻め駒が全く足りないように見えますが、そこは最後に不成でつっこんだ飛車に 11 香の紐がついているので、先手が残っている 4 手で 28 まで玉を送り込んでやればちゃんと詰むのでした。

それではみなさんの短評をどうぞ。

チャンプ（作者） 「mixi に投稿した際に私が一目置く存在のオウム御三家に高評価を頂いたので自信を持ってこちらにも投稿してみました。7 手目の▲同香が意外と盲点になりやすいかも知れません。皆さんは如何でしたでしょうか？」

■はい、私は当時同香を指すまで数日かかりました。

NAO 「28 で詰むとは全く予想外の手順。難問でしたが、12 手詰の傑作と思います。」

■いい作品ですよ。

中村雅哉「まるで無理そうに思える条件からきれいな手順が紡ぎだされる。「初手 7 筋」が飛移動位置限定、紛れ増加、余詰筋防止と一石三鳥の巧妙な条件付け。秀作。」

■当時私は逆に 7 筋だったが故に変な紛れ順はあまり考えませんでしたね。むしろ 6 筋の方が 68 銀を指して 17 角不成 18 飛 39 角不成で取った銀か金で 48 地点から詰みとかその系統があるので恐ろしい……。

EOG 「飛車を取らずに 12 飛と回るとは。」

■この大きく振る手は暗算だとかなり見えにくい手ですね。

斧間徳子 「44 角～17 角生～39 角生～48 角生～57 銀の筋かと思ったが、足りない。17 同香は、後手の攻め駒がなくなりそうで不利感がある。解後感よし。」

■また 17 香から先一気に答えまで進むのも気持ちいい大きな要因ですね。

隅の老人B 「初手は 7 筋へ。6、5 筋なら余詰むの？ 暇な爺さんは、いろいろなことを考える。」

■私は 7 筋の場合しか検討していませんが、どうやら 6 筋は余詰むらしいです（はなさかしろうさん情報）。

S.Kimura 「67・2 で痛い目にあったので、さすがに初手 76 歩は考えませんでした。17 角を使って詰ませようとしていたので、ヒントがなければ本当に迷宮入りでした。」

■たまに「初手 7 筋」が本当に 76 歩で、96 歩からの順を消す目的の条件だったりもするのでお気をつけて。

はらたっと 「全てを見切って 78 飛と指したいですが小生はとりあえず決め打ちの 78 飛でした。」

■それで充分だと思います。

渡辺 「詰形が実戦のトン死でもありそうな感じ（先後逆ですが）。最初は何故か成る手なしの条件を読み飛ばして余詰でおかしいなあ、と思っていました…。1 筋の生を稼ぎやすい駒は角香飛の順であることを考えると作者にしては割合素直な条件と手順かと思います。」

■不成を指すのに付加価値も求めると 17 まで桂馬を跳ねる途中で駒を渡す順もけっこう見ますね。

たくぼん 「有名な詰上りですのですぐに閃きました。王移動が間に合わないような気がしましたが間に合うんですね。」

■はい、先手はかなり暇してます。

はなさかしろう 「鮮やかで面白い詰み形でした。初手 7 筋はもう騙されないぞ、という条件ですが、初手 6 筋では余詰があるんですね。初手 5 筋とされるともっと悩んだかも。」

■やはり 6 筋はだめなんですね。5 筋も余詰みそうな感じですが大丈夫なのかな……？

占魚亭 「ギブアップです。」

■締め切りちょっと前に気まぐれに「推理将棋」で検索したら Twitter で占魚亭さんが悩んでいるのが見つかって、ヒントをもっと大胆に出すべきだったかと反省していました。

鈴木康夫 「1 筋の不成 3 種が香角飛であることは、ほぼ明らかなので簡単でした。」

■2 種だと歩が登場したりしますが 3 種だと、ね。

諏訪冬葉 「最初▲11 角不成を考えていたので 11 香の存在を忘れていました。」

■非常にありがちなミスですね。私も似たようなミスの心当たりがいくつも。

やまかん 「ヒントがあったのもありますが比較的すぐ解けました。割と自然な手順？かと思います。」

■普通の将棋として自然な手だからこそ 17 同香が見えなくなるのがこの問題の難しさなのです。

-----  
正解：14名

EOG さん S.Kimura さん 斧間徳子さん  
鈴木康夫さん 隅の老人Bさん 諏訪冬葉さん  
たくぼんさん チャンプさん NAOさん 中村雅哉さん  
はなさかしろうさん はらたっとさん やまかんさん 渡辺さん

-----  
総評

NAO 「今月くらいの難易度バランスが丁度よさそうです。」

■初中級が楽なら上級はこれくらいでもいいかもしれない、ということですね。

中村雅哉 「71-3 のようなきれいな作品を見ると、久しぶりに自分でも作ってみたいくなりますね。」

■ぜひぜひ。中村さん作を久々に見たいと思っている人は多いはず。

斧間徳子 「今回は3題とも条件付けが巧みですね。」

■やはり条件の簡素さは技巧的に見えますかね。

チャンプ 「気付けばもう年の瀬が近付いてますね。さて、馬がメインとなる作品でも創りますか(笑)」

■募集をすっかり忘れていたことに気づかせていただいてありがとうございます。

隅の老人B 「10月も中旬だというのに真夏日だって。涼しくなったら、推理将棋を考えよう。これじゃ、締め切りに間に合いませんね。」

■真夏日と台風の連続攻撃は本当に勘弁して欲しかった……。

はらたっと 「3問目、mixi に平凡な7手目が見えないと載っていた意味がよくわかりました。」

■本将棋で平凡な手ほど推理将棋では奇抜な手なんですよね。

しまぎろう 「解答発表がなかなか出なかったの、不安になりましたが風邪だったのですね。僕も風邪を引いてしまい、更に定期テスト2回+文化祭のハードスケジュール(?)。全然考える時間が取れませんでした、それでも1問は解けたので解答します。」

■心配してくださってありがとうございます。

自律神経の異常と心身症の合わせ技で気候が急激に変動すると偏頭痛やら気管支炎の悪化やら免疫力が下がっての風邪やらなんやらで大変なことになるのです。先月は頭痛と吐き気で力尽きてましたが今は昼も夜も咳が止まらず熱も出てやっぱり力尽きました。しかもそのタイミングで定期テスト(指導する方)があつて無理せざるを得なかったというね……。

しまぎろう(続き) 「今回は難しかったです。解答発表でとても嬉しい言葉をたくさんかけていただいて本当にありがとうございます(泣)。」

■それだけいい作品だったということです。第二作もみなさん楽しみにしていますよ。

たくぼん 「今回はなぜか早く解けました。解答書いて送るのは相変わらずぎりぎりですが(笑)」

■たくぼんさんの場合こっちの締め切り間際にWFP書かないといけないので、そっちを発行してから解答書き始めるみたい流れがあるのでしょうね。毎回ギリギリであっても忘れることはなさそう。

変寝夢 「以下は時間切れです。残り三日ぐらいでやり出したのが原因かな。あと大駒を持ち駒にした時、変化の数がとんでもなく増えます、3手目で角を取った後は、12から98までの空き地に角を打つ手は最低読むのですから当然かも。何かいいオプションないかな?。」

■ある程度人間が駒打ちについて指定してやるしかないような気がします。といっても作意には駒取りがないのに紛れで大駒を取る順がある場合はそれでも難しいかな?

はなさかしろう 「コメントを考えているうちに回答を送りそびれておりましたが... 今月はなんとか。ついこの間まで暑かったのに、もう肌寒い季節になりましたね。」

■あまりおおっぴらには言えませんが、気づいたら締め切り過ぎていた時にはmixiか何かで直接私に送ってくださればごによごによ。さすがに賞品抽選からは外させていただくと思いま

すが。

鈴木康夫「実は今月は、練習問題が一番難しかったです。」

■そういえばけっこう難しい問題出したんですね。

やまかん「今回はヒントを見ないと3問とも解けなかったでしょうね。ヒントを見て初級はいろいろな時に考えましたが合計3時間以上はかかったかも。42銀は本当に盲点でしたね。可能な手をほとんど試して諦めかけました。中級は15分、上級は5分で解けたんですけどね。。」

■32銀を先に見つけてしまうと馬は42に作るものと思ってしまうので42銀が指せないように錯覚するという、まったくうまくできたトラップです。

-----  
推理将棋第71回出題全解答者： 18名

EOGさん S.Kimuraさん 斧間徳子さん  
chemicalさん しまぎろうさん 鈴木康夫さん  
隅の老人Bさん 諏訪冬葉さん 占魚亭さん  
たくぼんさん チャンプさん NA  
Oさん 中村雅哉さん はなさかしろうさん  
はらたっとさん 変寝夢さん やまかんさん  
渡辺さん

# 王手が9割 結果

一乗谷酔象

実戦初形から指し始めて全着手中の王手の割合が9割に達する手順を求める最短手数探索型の将棋パズルです。解があるかどうか不明の状況での出題でしたが、挑戦された荻絵香木さんとDD++さんのご両名とも王手率90%以上を達成されました。

## ルール (案)

王手九割詰：実戦初形から指し始め、同一局面なしで王手率が90%以上に達して詰みに至る手順を求める。非限定は許容する。

王手率：全着手中の王手の割合

## ■ 第1問

「推理棋神戦の決勝戦、見たかい？ 凄い熱戦だったね」

「王手王手の応酬がすさまじい将棋だった。なにしろ、着手の9割は王手だったからね」

## 条件

1) 実戦初形から指し始めて、王手率が90%以上に達して詰んだ。

2) 同一局面なし

はたして解はあるのだろうか？

## 【第1問解答】

現在(2013.11.20)の最短手数は570手です。手順は第3問を参照ください。

## 【第1問結果】

第1問には、2名から解答いただきました。

・荻絵香木 87479手。王手率 90.003315% (78734/87479)

・DD++ 720手。王手率 90.0% (648/720)

荻絵香木さん、DD++さんのいずれも見事王手率90%を達成されました。

荻絵香木さんは、8万手越えの超長手数で、しかも最初の出題から僅か1週間以内に解答いただき、長編作家の実力を示しました。

DD++さんは、効率の高いループ機構を発見されて720手の短手数手順を達成しました。

## ◆荻絵香木さんの解答

荻絵「WFP61の懸賞問題を見て、面白そうだったので研究の息抜きに参加しました。結果、王手9割を達成する手順を発見しました。手数は87479手です。」

□出題わずか1週間の解答、しかも8万手越えとはホントに驚きました。

荻絵「方針は、2手の無駄手を許容するような王手率が9割より大きい繰り返し手順を見つけることです。それが出来れば、序奏に何手かかろうとも、ループを繰り返すことで、全体の王手率をループの王手率にいくらかでも近づけることができ、いずれ9割を突破します。(追記:あとで気づいたのですが、先手後手を入れ替えて繰り返すことで無駄手は1手で済むのかもしれませんが)」

□出題の狙いを的確に看破されていますね。荻絵さんの発見されたループを紹介します。

【図 1-1】 荻絵氏解の原理図

	9	8	7	6	5	4	3	2	1	
一										
二	歩									
三										
四				王	皇	飛				
五				角	馬					
六			香	香	王					
七										
八									歩	
九										

先手持駒 金4香2

後手持駒 銀4

・図1-1の原理図から

64角 56角 45金 同角 56香 同角

45金 同角 56香 55金 同角 36角

44角 55金 同角 44香 同角 55銀

同角 44香 45金 同角

ここまでの手順22手中の王手が20手。20/22 = 0.909... > 0.900。互いに角が動けば王手が掛かるので逆王手の連続で王手率が稼ぎます。盤面は原形に戻っていますが、先手持駒の金1枚が銀に入れ替わるので局面は変化しています。

・このループを基本として同一局面にならないよう手順を組み立てます。以下は荻絵氏の構想の概要を示します。(詳細手順は割愛)

・A手順(80/88)=上記22手を4回繰り返す。先手金4 から始まり、22手ごとに金を銀に変換。

・B手順(80/88)=Aと同様に、先手銀4から始まり金4になる88手の手順。

・A1手順(80/88)=先手金4 から始まり手順の初めで先手が後手の82にある駒(歩か桂)を掠め取り手順の終わりで後手が先手の18にある駒を掠め取る以外は、Aと同様の手順。

・B1手順(80/88)=先手銀4 から始まり手順の初めで先手が後手の82にある駒を掠め取り手順の終わりで後手が先手の18にある駒を掠め取る以外は、Bと同様の手順。

・ABA手順(240/264)= A → B1 → A という手順(間で82, 18の駒を取る関係で同一局面は現れない)82, 18の駒がそれぞれ先手後手の持駒に変わる。先手金4は銀4に総交換。

・BAB手順(240/264)= B → A1 → B という手順でABAと同様。先手銀4は金4に総交換。

・C手順(960/1064)=(ABA手順、18桂 82歩、BAB手順、18桂 82歩)×2。18桂と82歩がある状態から先手桂3枚は歩3枚に交換。

・D手順(960/1064)=(ABA手順、18歩 82桂、BAB手順、18歩 82桂)×2。Cと同様、18桂と82歩がある状態から先手の歩3枚を桂3枚に交換。

・C手順またはD手順ではそれを1回行う毎に無駄手を2手挟むことができる。手順中の王手率は  $960/1066 = 0.90056285 \dots > 0.9000$ 。

・序盤で図1-1のループ形を築いた後、「C手順、無駄手×2、D手順、無駄手×2」を繰り返し、王手率が0.9を越えるまで進めていく。無駄手はなんでもいい。

・荻絵さんの解答手順

序奏=「76歩 34歩 22角成 同飛 44角 55角  
22角成 99角成 11馬 89馬 21馬 42玉  
31馬 33玉 68玉 79馬 77玉 69馬  
41馬 59馬 66玉 49馬 51馬 44玉  
61馬 39馬 71馬 29馬 81馬 19馬  
91馬 28馬 92馬 17馬 83馬 27馬  
73馬 37馬 63馬 47馬 54馬 同玉  
45銀 同玉 54銀 同玉 24飛 56馬  
同玉 46金 同玉 47金 同玉 46香  
同玉 36桂 同玉 46桂 同玉 45角  
34飛 44香 18桂 82歩 55角 66飛  
56香 94歩」(68手、図1-2)

【図1-2】荻絵氏解の序盤 68手目迄

	9	8	7	6	5	4	3	2	1	
										一
	金									二
				金	金		金	金		三
金				王	皇	飛				四
				角	馬					五
		歩	進	香	王					六
歩	歩		歩	歩						七
									桂	八
										九

先手持駒 金4桂3香2歩4  
後手持駒 銀4歩3

図1-2以下69手目より、

C手順、X1, Y1、D手順、X2, Y2、...

C手順、Xm, Ym、D手順、Xm+1, Ym+1、...

繰り返し(手順省略)...

53と引 まで(87479手、図1-3)

・王手率： $78734 / 87479 = 0.90003315$

【図1-3】荻絵氏解の終図

	9	8	7	6	5	4	3	2	1	
										一
	金									二
			と	と	金		金			三
と				王	皇	飛				四
		と		角	馬					五
		歩	進	香	王					六
			歩	歩						七
			ス						桂	八
										九

先手持駒 金4桂3香2歩4  
後手持駒 銀4歩3

・序奏部の王手率は 13/68。ここから CまたはD手順を m 回繰り返すと、

王手率は  $(960m+13)/(1066m+68) \geq 9/10$

$$\Leftrightarrow m \geq 241/3 = 80.3333 \dots$$

よって m=82 とすれば、王手率が9割を超える。(81としていないのは先手番で詰むようにしたため)途中、同一局面にならないようループと無関係な無駄手部分をm×2回(=164回)挟んで手を繋ぐ。解答手順では、図1-3のようにと金を作っていく、王手率が9割越えるまで繰り返す。

荻絵香木さん(コメント抜粋、感想)

・おそらく、やり方は想定されているものと同じか、それよりループが多くなってしまっているかではないか。

・(序奏部の)最終手は完全に無意味な手で、推理将棋が得意な人ならもっと短い手順を見つけられると思う。

・感想：  
ループを重ねていくことで、ちょっとずつ間に駒変換などを挟むことができ、最終的に無駄手を挟むことができるようになるというのが非常に面白いと思いました。また、9割というのが適当に決めた値に見えてかなり絶妙だと思いました。

自分が密度の高い手順を発見できていないだけかもしれませんが、これを91%にすると(あるいは90.1%ですら?)問題を解くのは不可能になる気がします。

そういう点から、WFP61には、最短手数探索型と書いてありましたが、自分はどちらかと言うと、漸近する割合の大きさに興味があります。

私の方法の場合  $960/1066=0.90056285$  に漸近していきますが、さすがにもうちょっとよくなるのではないかと思います(もはや余りやる気はないですが)。王手密度の高い繰り返し手順として、 $20/22=0.90909091$  のものを使う限り、それを超えられないことは自明ですが、もっと良い繰り返し手順はあるものなのか、興味深いと思いました。

□解答者ゼロも覚悟しましたが、出題早々に解答いただきました。荻絵さんの基本ループ20/22は、9割越えを目指すにはやや効率が悪いのですが、これを短期間に発見されたのは流石です。3年ぐらい前にmixiのコミュで王手率のループ手順が話題になった際、王手率85%前後が探索されており、当時90%を超えることはありませんでした。90%越えが発見されたのはつい最近のことなのです。

□荻絵さんには、全手順と各部分手順毎の棋譜ファイルを解説付きでいただき手順の理解にたいへん助かりました。

□解答手順では、手数短縮の余地が多くありますので、簡単に補足します。

・序盤：非王手30手ぐらいで基本の王手量産形をつくることはできるはず。

・ループ手順：図1-1から44角、56角と香を取り合った形から開始すれば、金(銀)3枚+香2枚渡しの

14/15 (先後で28/30) まで王手率を高められる。具体的な手順は第2問を参照。

・無駄手：非王手が2手~4手連続する手順が含まれているが、これを減らすことができる。特に盤面の配置が変化するときループ間の非王手は1手で済むはず。

□とはいえ、予備知識なしの自力で王手9割を達成されたのは素晴らしく、さすが協力詰長編作家の実力を示しました。

◆DD++さんの解答 (720手解)

・序~45手目

76歩 32金 33角成 42飛 32馬 99角成  
21馬 89馬 43馬 67馬 53馬 57馬  
63馬 47馬 73馬 52玉 91馬 29馬  
81馬 28馬 71馬 37馬 48金 同馬  
68玉 96飛 59香 58金 同金 56桂  
67玉 58馬 66玉 76馬 56玉 51香  
61馬 63玉 52銀 同飛 同馬 54玉  
14飛 34銀 同馬 (45手、図1-4)

舞台作り。手数は非王手30回である程度融通が利くが、ループに入ってからの手数の端数が5なので、ここの手数も王手を適当に混ぜて手数の一の位を5にしておく。

【図1-4】DD++氏解の序盤45手目迄

				皇	爵	皇	一	
							二	
歩	歩					歩	歩	三
				王	馬	飛	四	
							五	
進	進			王			六	
歩	歩					歩	歩	七
							八	
							九	

先手持駒 金3銀桂3歩5  
後手持駒 金桂歩5

・46~153手目 (108手で王手101回)

64玉 (54金 同馬 76桂 同馬)×3  
53銀 54玉 46玉 (56金 同馬 34桂 同馬)×3  
56金 同玉 44桂 同銀成 64玉

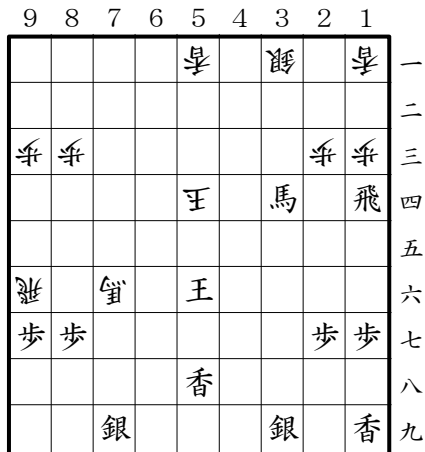


(54金 同馬 76桂 同馬)×4 54成銀 同玉 46玉  
 (56金 同馬 34桂 同馬)×4 57銀 56玉 64玉  
 (54金 同馬 76桂 同馬)×3  
 54金 同玉 66桂 同銀成 46玉  
 (56金 同馬 34桂 同馬)×4  
 58歩 同香 56成銀 同玉 (153手、図1-5①)

ループ1周目。55手で王手52回の順を先後入れ替えて2セット。ただし最初に先手の金桂が3枚しかないので-4手。同一局面回避のため58歩合同香を挟んで+2手。これは収束途中(712手目)で香を取るための位置調整を兼ねている。

- ・154~265手目 (112手で王手105回)  
 64玉 (54金 同馬 76桂 同馬)×4  
 53銀 63玉 64歩 54玉 46玉  
 (56金 同馬 34桂 同馬)×3  
 56金 同玉 44桂 同銀成 64玉  
 (54金 同馬 76桂 同馬)×4 54成銀 同玉 46玉  
 (56金 同馬 34桂 同馬)×4 57銀 56玉 64玉  
 (54金 同馬 76桂 同馬)×3  
 54金 同玉 66桂 同銀成 46玉  
 (56金 同馬 34桂 同馬)×4  
 56成銀 同玉(153手、図1-5②)

【図1-5】



①153手目迄	先手持駒 金4 銀桂4 歩6 後手持駒 歩4
②265手目迄	先手持駒 金4 銀桂4 歩5 後手持駒 歩5
③377手目迄	先手持駒 金4 銀桂4 歩4 後手持駒 歩6
④489手目迄	先手持駒 金4 銀桂4 歩3 後手持駒 歩7
⑤601手目迄	先手持駒 金4 銀桂4 歩2 後手持駒 歩8

ループ2周目。55手で王手52回の順を先後入れ替えて2セット。53銀に54玉とせずに同一局面回避のため「63玉 64歩」を挟んで+2手。

- ・266~377手目 (112手で王手105回)  
 (手順略) 377手目56同玉(図1-5③)  
 棋譜2周目と同じ。ループ3周目。歩が1枚移動しているため同一局面は生じていない。
- ・378~489手目 (112手で王手105回)  
 (手順略) 489手目56同玉(図1-5④)  
 棋譜2周目と同じ。ループ4周目。
- ・490~601手目 (112手で王手105回)  
 棋譜2周目と同じ。ループ5周目。  
 (手順略) 601手目56同玉(図1-5⑤)
- ・602~707手目 (106手で王手100回)  
 64玉 (54金 同馬 76桂 同馬)×4  
 53銀 63玉 64歩 54玉 46玉  
 (56金 同馬 34桂 同馬)×3  
 56金 同玉 44桂 同銀成 64玉  
 (54金 同馬 76桂 同馬)×4 54成銀 同玉 46玉  
 (56金 同馬 34桂 同馬)×4 57銀 56玉 64玉  
 (54金 同馬 76桂 同馬)×3  
 54金 同玉 66桂 同銀成 46玉  
 (56金 同馬 34桂 同馬)×3 (図1-6)

ループ6周目は、最後の6手を省略。

【図1-6】707手目 34馬まで



先手持駒 金3 桂3 歩  
 後手持駒 金 桂 歩9

・708～720手目（13手で王手12回）  
 56成銀 同馬 34桂 同馬 58馬 66桂  
 同飛 56馬 34桂 同飛 44香 35玉  
 25金(図1-7) まで720手。

4枚目の金の代わりに成銀を捨てて破調、怒涛の26連続王手から35玉を挟んで収束。

・王手率: 0.900 = 王手648回/720手

【図1-7】 DD++氏 720手解の終図

				皇	將	皇			
歩	歩					歩	歩		
				王	皇	飛			
						王	皇		
			馬	馬					
歩	歩						歩	歩	
				銀					
		銀			銀		香		

先手持駒 金4銀桂4歩  
 後手持駒 歩9

DD++さん (コメント)

とりあえず18/19のループを発展させた52/55のループを駆使して720手解はできました。(ループの王手率は下がっていますが無駄手を入れる頻度がグッと下がるので52/55の方が優秀) 序がまだゆるい気がするのでそこを詰められれば710かもしかしたら700まで縮むかもしれませんが、そのあたりが私のアイデアの限界っぽいです。

□出題時点では1000手未満、3桁解答があればいいのにと考えていましたが、DD++さんから当初予想より大幅に手数を短縮した720手解をいただきました。そういえば、王手率を高めるのに同一手順ループを入れるアイデアをmixiコミュに提案したのがDD++さんでしたね。

□王手量産の仕組みは、図1-4から64玉から開王手を掛け、合駒にも王手で金桂を打ち捨てる派手な手順が基本になります。そして、金4桂4に銀を加えたのが高効率ループのポイントです。金4枚桂4枚を渡し、手番を入れ替えて金4枚桂4枚を受け取るのですが、単純な受け渡しだとすぐに同一局面にぶつかるので合駒に銀1枚を加えた上で、無駄手を入れて同一局面にならないよう手を繋

いでいきます。図1-5に示すように、同じ盤面で持歩を1枚渡す112手のループ手順は効率が高く、ループ手順の王手率は105/112=0.9375に達します。(合駒に金4桂4に銀を加えた手順を更に改良した手順は第3問で後述します)

□序が緩い気がするコメントされていますが、45手までの非王手が30回ですので、非王手を1手減らせるかどうか、かなり限界に近い感触です。

■第2問

王手九割詰(成禁)

【途中図、手番は先手】

歩	歩		歩		歩	歩	歩		
		飛		角	王				
		歩		王	皇		皇		
歩	歩		歩	歩	歩			歩	
		桂							

先手持駒 金3銀3香3歩3  
 後手持駒 金銀桂香歩2

【条件】

- 1) 実戦初形から指し始め、途中図を經由して、800手で詰んだ。途中図は64手目46角まで(33回目の王手から逃れた局面)
- 2) 同一局面なし
- 3) 成る手なし

【第2問結果】

・解答者なし

【第2問解答(例)】

・初手～41手目

76歩 32飛 33角生 62玉 55角生 54歩  
 73角生 53玉 91角生 99角生 55角生 37飛生  
 11角生 39飛生 38飛 55角生 31飛生 19角生  
 41飛生 49飛生 68玉 69飛生 77玉 79飛生  
 66玉 56金 同玉 55歩 同角生 29飛生  
 44角 同玉 61飛生 27飛生 71飛生 74角  
 同飛生 54香 55銀 同角生 65角(図2-1)

序奏部は41手かけて、非王手回数がなるべく少

なくなるよう王手量産の基本形をつくる。ここまで王手12手、非王手が29手。

【図 2-1】 41 手目 65 角まで

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
	科							科	一
									二
	歩	歩		歩		歩		歩	三
			飛		王	王			四
				角	王				五
			歩		王				六
	歩	歩		歩	歩	歩		歩	七
									八
	桂								九

先手持駒 金 3 銀 1 香 2 歩 3  
後手持駒 金 1 銀 3 桂 1 香 1 歩 2

・ 42～79手目

26飛生 46香 同角 55銀 同角  
46香 同角 54角(49手、図2-2①)  
『 35角 46香 45銀 同角 54香 同角  
45銀 同角 54香 同角 45銀 同角  
54香 同角 46角(64手、図2-2②)、= 出題の途中  
図) 』 = A1

# 50手目～64手目の15手をA1手順とする。

『 65角 54香 55金 同角 46香 同角  
55金 同角 46香 同角 55金 同角  
46香 同角 54角(79手、図2-2③) 』 = B1

# 65手目～79手目の15手をB1手順とする。

49手目にループ初形(図2-2①)が完成。50手目からの15手かけて金駒3枚と香2枚の計5枚の持駒を受け取り、次の15手で5枚を返す手順を繰り返す。手順中、同一局面にならないよう受け渡しの金駒の種類は入れ替えておく。ループ15手中の非王手は最後の1手だけで、往復30手(A1, B1)の王手率は $28/30=0.9333\cdots$ 。

・ 80～124手目

『 24角 46香 45金 同角 54香 同角  
45金 同角 54香 同角 45銀 同角  
54香 同角 46角(94手、図2-2④) 』 = A2

# 80手目～94手目の15手をA2手順とする。

『 65角 54香 55銀 同角 46香 同角  
55銀 同角 46香 同角 55銀 同角  
46香 同角 54角(109手、図2-2⑤) 』 = B2

# 95手目～109手目の15手をB2手順とする。

【図 2-2】

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
	科							科	一
									二
	歩	歩		歩		歩		歩	三
			飛		角	王			四
									五
			歩		王	王		歩	六
	歩	歩		歩	歩	歩		歩	七
									八
	桂								九

① 49 手目迄 △後手番	先手持駒 金 3 銀 0 桂 0 香 1 歩 3 後手持駒 金 1 銀 4 桂 1 香 3 歩 2
② 64 手目迄 ▲先手番	先手持駒 金 3 銀 3 桂 0 香 3 歩 3 後手持駒 金 1 銀 1 桂 1 香 1 歩 2
③ 79 手目迄 △後手番	先手持駒 金 0 銀 3 桂 0 香 1 歩 3 後手持駒 金 4 銀 1 桂 1 香 3 歩 2
④ 94 手目迄 ▲先手番	先手持駒 金 2 銀 4 桂 0 香 3 歩 3 後手持駒 金 2 銀 0 桂 1 香 1 歩 2
⑤ 109 手目迄 △後手番	先手持駒 金 2 銀 1 桂 0 香 1 歩 3 後手持駒 金 2 銀 3 桂 1 香 3 歩 2
⑥ 124 手目迄 ▲先手番	先手持駒 金 4 銀 2 桂 0 香 3 歩 3 後手持駒 金 0 銀 2 桂 1 香 1 歩 2

『 37角生 46香 45金 同角 54香 同角  
45金 同角 54香 同角 45銀 同角  
54香 同角 46角生 (124手、図2-2⑥) 』 = A3

# 110手目～124手目の15手をA3手順とする。

80手目から次の往復30手ループに入る。110手目からは片道の15手ループのみ。図2-2は、ループ手順中に同じ盤面で、手番と持駒が異なる局面を表している。図2-2で手番が先手のときの後手持駒に注目すると、いずれも金駒2枚で、②金銀、④金2、⑥銀2のように変化している。金駒2枚の組み合わせはこれら3通りなので、これ以上繰り返すと同一局面が発生する。

・ 125～139手目

『 43角生 54香 55銀 同角 46香 同角  
55銀 同角 46香 同角 55金 同角  
46香 同角 54角生(139手、図2-3)

盤上の43歩を取って盤面を変化させる。

【図 2-3】

9	8	7	6	5	4	3	2	1		
	科							科	一	
									二	
	歩	歩		歩				歩	歩	三
		飛		角	王					四
										五
		歩		王	馬		龍			六
	歩	歩		歩	歩	歩			歩	七
										八
	桂									九

139 手目迄 先手持駒 金 3 銀 0 桂 0 香 1 歩 4  
 △後手番 後手持駒 金 1 銀 4 桂 1 香 3 歩 2

・ 140～229 手目

A1、B1、A2、B2、A3、21 角生 54 香

55 銀 同角 46 香 同角 55 銀 同角

46 香 同角 55 金 同角 46 香 同角

54 角生(229 手、図 2-4)

再びループ手順を 2 往復半(15×5=75 手)行う。  
 その後、盤上の 21 桂を取って盤面を変化させる。

【図 2-4】

9	8	7	6	5	4	3	2	1		
	科								一	
									二	
	歩	歩		歩				歩	歩	三
		飛		角	王					四
										五
		歩		王	馬		龍			六
	歩	歩		歩	歩	歩			歩	七
										八
	桂									九

229 手目迄 先手持駒 金 3 銀 0 桂 1 香 1 歩 4  
 △後手番 後手持駒 金 1 銀 4 桂 1 香 3 歩 2

・ 230～319 手目

A1、B1、A2、B2、A3、63 角生 54 香

55 銀 同角 46 香 同角 55 銀 同角

46 香 同角 55 金 同角 46 香 同角

54 角生(319 手、図略)

ループ手順を 2 往復半(75 手)行った後、盤上の  
 63 歩を取って盤面を変化させる。

・ 320～409 手目

A1、B1、A2、B2、A3、81 角生 54 香

55 銀 同角 46 香 同角 55 銀 同角

46 香 同角 55 金 同角 46 香 同角

54 角生(409 手、図略)

ループ手順を 2 往復半(75 手)行った後、  
 盤上の 81 桂を取って盤面を変化させる。

・ 410～501 手目

A1、B1、A2、B2、A3、72 角生 64 桂

同飛 54 香 55 銀 同角 46 香 同角

55 銀 同角 46 香 同角 55 金 同角

46 香 同角 54 角生(501 手、図 2-5)

ループ手順 2 往復半(75 手)の後、64 桂合 同飛の  
 王手 2 手を挟んで、飛位置と持駒を変化させる。

【図 2-5】

9	8	7	6	5	4	3	2	1		
									一	
									二	
	歩	歩						歩	歩	三
			飛	角	王					四
										五
		歩		王	馬		龍			六
	歩	歩		歩	歩	歩			歩	七
										八
	桂									九

501 手目迄 先手持駒 金 3 銀 0 桂 3 香 1 歩 5  
 △後手番 後手持駒 金 1 銀 4 桂 0 香 3 歩 2

・ 502～593 手目

A1、B1、A2、B2、A3、81 角生 54 香

55 銀 同角 46 香 同角 55 銀 同角

46 香 同角 55 金 同角 36 桂 同飛

46 香 同角 54 角生(593 手、図略)

ループ手順 2 往復半後のループ手順に 36 桂合  
 同飛の 2 手を挟んで、飛位置と持駒を変化させる。

・ 594～683 手目

A1、B1、A2、B2、A3、

32 角生 54 香 55 金 同角 46 香 同角

55 金 同角 46 香 同角 55 金 同角

46 香 同角 54 角生(683 手、図略)

後手番からループ手順を 3 往復(15×6=90 手)。  
 先手持駒のうち金駒(3 枚)は、金 3→ 銀 3→ 金 2 銀 1  
 → 金 1 銀 2 のように 30 手毎に変化し、同一局面は  
 生じない。

・ 684～713手目

57角生 46香 45金 同角 54香 同角  
 45金 同角 54香 同角 45金 同角  
 54香 同角 46角生 43角生 54香  
 55銀 同角 46香 同角 55銀 同角  
 46香 同角 55金 同角 46香 同角  
 54角生(713手、図略)

ループ手順を1往復した後、57歩を取って盤面を変化。

・ 714～774手目

A1、A2、B1、B2、66銀(774手、図2-6)

ループ手順2往復(15×4=60手)した後、収束のため66銀を置いておく。

【図 2-6】

	9	8	7	6	5	4	3	2	1		
										一	
										二	
	歩	歩							歩	歩	三
				飛	角	王					四
											五
			歩	爵	王	角	龍				六
	歩	歩		歩		歩				歩	七
											八
		桂									九

774 手目迄 先手持駒 金 2 銀 1 桂 2 香 1 歩 5  
 ▲先手番 後手持駒 金 2 銀 2 桂 1 香 3 歩 3

・ 775～800手

35金 同角 46香 45金 同角 54香  
 同角 45金 同角 54香 同角 45銀  
 同角 54香 同角 46角 65角 54香  
 55金 同角 46香 同角 55金 同角  
 46香 45銀(図2-7) まで800手。

・ 王手率0.900=720/800。

775手目以降は収束。ループ継目の非王手(46角)の後、自ら逃げ道を塞ぐ65角から10連続王手で詰み。収束には種々の形がありそう。

【解説】

残念ながら本問の解答者はありませんでした。図2-2に示したように、金銀香を受け渡しするのが王手量産の基本ループになります。15手の手順中王手が14手でループ王手率14/15=0.933...

【図 2-7】 800 手目 45 銀まで

	9	8	7	6	5	4	3	2	1		
										一	
										二	
	歩	歩							歩	歩	三
				飛	皇	王					四
				角	皇	爵					五
			歩	爵	王	香	龍				六
	歩	歩		歩		歩				歩	七
											八
			桂								九

先手持駒 金 1 銀 2 桂 2 香 1 歩 5  
 後手持駒 金 3 桂 1 香 3 歩 3

1ループ中の合駒の数は、荻絵解が5枚(10/11)、DD解が8～9枚(16/17～18/19)でしたが、第2問はその中間の7枚(14/15)になります。

同一局面にならないように、持駒の金銀の数を変化させ、長ループを形成し、更に盤面の駒取りを行って盤面と持駒を変化させます。

720手解や570手解が明らかになった以上、本問800手解の存在価値は薄くなった感もありますが、王手九割詰の典型の一つとして、紹介しました。

持駒や盤面の自由度が高いため、手順の非限定は多数あります。別の条件を絡めれば発展の余地はあるかもしれません。

■ 第3問

王手九割詰

【途中図、手番は先手】

	9	8	7	6	5	4	3	2	1		
									皇	一	
					皇					二	
	歩	歩	歩	歩	歩				歩	三	
					王		角	龍		四	
										五	
			龍	皇		王				六	
	歩	歩		歩	歩				歩	歩	七
						香					八
											九

先手持駒 歩 3  
 後手持駒 金 4 銀 4 桂 4 歩 3

【条件】

- 1) 実戦初形から指し始め、途中図を經由して、570手で詰んだ。途中図は98手目44同玉まで(67回目の王手から逃れた局面)
- 2) 同一局面なし

【第3問結果】

・解答者1名(DD++さんが挑戦され、参考解として600手解をいただきました)

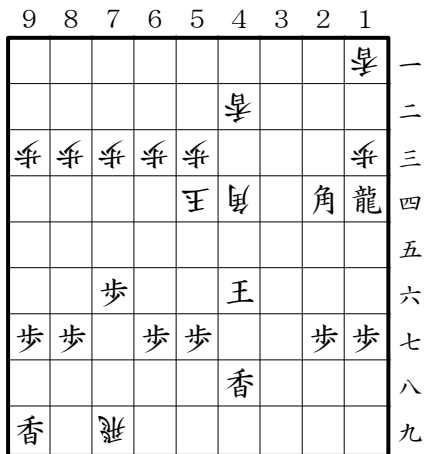
【第3問解答(570手解の例)】

・初手～45手目

76歩 32飛 33角成 42金 43馬 37飛生  
 77桂 同角生 58玉 47飛生 38飛 49飛生  
 42馬 同玉 31飛成 43玉 61龍 39飛生  
 71龍 29飛生 81龍 19飛生 91龍 69飛生  
 49香 48金 同香 46桂 47玉 14角  
 46玉 79飛生 21龍 42香 23龍 54玉  
 43銀 44玉 14龍 34桂 同銀成 54玉  
 44成銀 同角生 24角(45手, 図3-1)

序奏部では45手かけて、非王手回数がなるべく少なくなるよう王手量産の基本形をつくる。ここまで王手17手、非王手が28手。

【図3-1】45手目24角まで



先手持駒 金3 銀 桂4 歩3  
 後手持駒 金 銀3 歩2

・46～98手目

76 飛生 66 桂 同角  
 (44 金 同角 66 桂 同角)×3 43 銀 44 玉 36 玉  
 (46 金 同角 24 桂 同角)×3  
 46 金 同玉 34 桂 同銀成 54 玉  
 (44 金 同角 66 桂 同角)×4  
 44 成銀 同玉(98手、出題図)

46手目から連続王手に入り、持駒を揃えていき、出題の途中図に至る。先手は桂4金3を渡した後で、金4桂4を取り返す。後手には最初に銀4を与えておく。

・99～135手目

36玉(99手、図3-2①)

(46金 同角 24桂 同角)×4 47銀 46玉 54玉  
 (44金 同角 66桂 同角)×3

44金 同玉 36桂 同銀成 同玉(135手、図3-2②)

99手目から基本ループ手順に入る。金4桂4の合駒に途中47銀を絡めることにより、手順を折り返す。手順中4回目の『44金 同玉 36桂 同銀成 同玉』がポイント。100～135手が一つのループで図3-2①→②のように36手進めて、先手の持駒の銀1枚が増える。基本ループの王手率は $34/36=0.9444\dots$ 。

・136～171手目

(46金 同角 24桂 同角)×4 47銀 46玉 54玉  
 (44金 同角 66桂 同角)×3

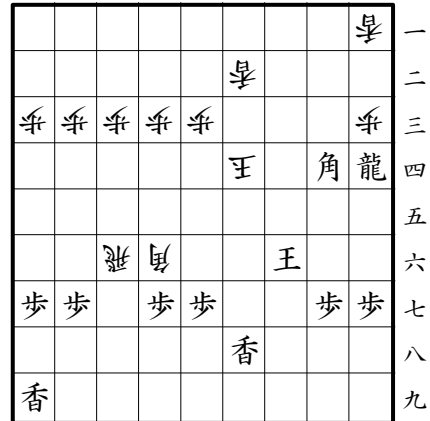
44金 同玉 36桂 同銀成 同玉(171手、図3-2③)

ループ二巡目。36手ループで先手が銀を増やす。

・172～207手目

(46金 同角 24桂 同角)×4 47銀 46玉 54玉

【図3-2】



①99手目 先手持駒 歩3  
 後手持駒 金4 銀4 桂4 歩3

②135手目 先手持駒 銀1 歩3  
 後手持駒 金4 銀3 桂4 歩3

③171手目 先手持駒 銀2 歩3  
 後手持駒 金4 銀2 桂4 歩3

④207手目 先手持駒 銀3 歩3  
 後手持駒 金4 銀1 桂4 歩3

(44金 同角 66桂 同角)×3

44金 同玉 36桂 同銀成 同玉(207手、図3-2④)  
 ループ三巡目。36手ループで先手が銀を増やす。

・208～262手目

(46金 同角 24桂 同角)×4 47銀 46玉 54玉

(44金 同角 66桂 同角)×3

44金 同玉 56桂 同銀成 36玉

(46金 同角 24桂 同角)×4 46成銀 同玉

54玉(262手、図3-3①)

4枚目の銀をもらう際は、手番も入れ替える必要がある。『44金 同玉 56桂 同銀成 36玉』を入れて一旦成銀を残し、1往復半のループとする。手番を渡す208～262手目のループ手順の王手率は $52/55=0.945454\dots$ 。

・263～298手目

(44金 同角 66桂 同角)×4 43銀 44玉 36玉

(46金 同角 24桂 同角)×3

46金 同玉 54桂 同銀成 同玉(298手、図3-3②)

先手持駒の銀4枚から後手に銀を渡す36手ループ(34/36)。

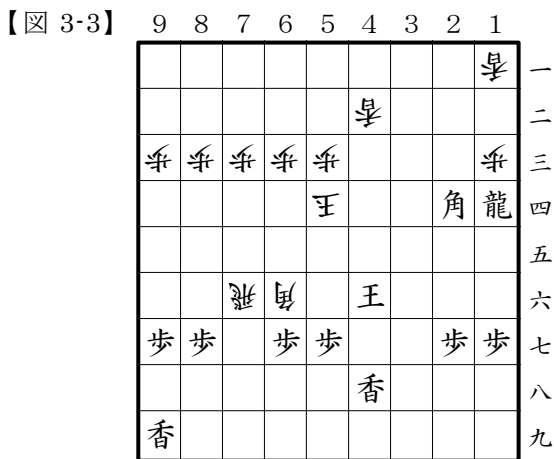
・299～334手目

(44金 同角 66桂 同角)×4 43銀 44玉 36玉

(46金 同角 24桂 同角)×3

46金 同玉 54桂 同銀成 同玉(334手、図3-3③)

2枚目の銀を後手に渡す二巡目の36手ループ。



①262手目 先手持駒 金4 銀4 桂4 歩3  
 後手持駒 歩3

②298手目 先手持駒 金4 銀3 桂4 歩3  
 後手持駒 銀1 歩3

③334手目 先手持駒 金4 銀2 桂4 歩3  
 後手持駒 銀2 歩3

・335～391手目

(44金 同角 66桂 同角)×4 43銀 44玉 36玉

(46金 同角 24桂 同角)×3

46金 同玉 34桂 同銀成 54玉

(44金 同角 66桂 同角)×4

43銀 同香 44成銀 同玉 36玉(391手、図3-4①)

このまま後手に銀を渡していくとやがて同一局面が現れるので一工夫。まず、3枚目の銀を渡す際に『46金 同玉 34桂 同銀成 54玉』を入れて、1往復半ループに入る。その後、『43銀 同香 44成銀 同玉』のように2連続で銀を捨て、香を43に移動させる。この手順では手番は入れ替わる。王手率= $54/57=0.94736\dots$ 。

・392～427手

(46金 同角 24桂 同角)×4 47銀 46玉 54玉

(44金 同角 66桂 同角)×3

44金 同玉 36桂 同銀成 同玉(427手、図3-4②)

先手持駒の銀が1枚増える36手ループ(34/36)。

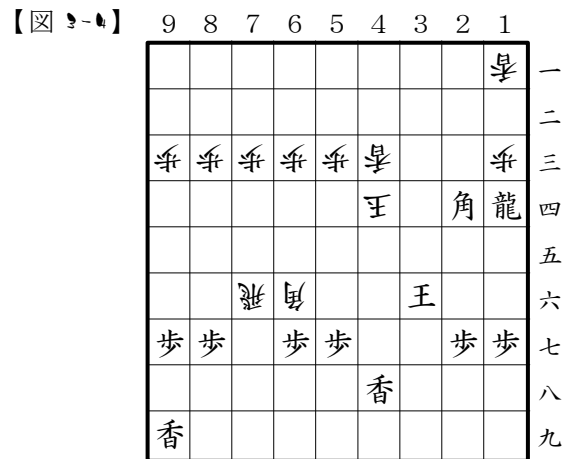
・428～463手

(46金 同角 24桂 同角)×4 47銀 46玉 54玉

(44金 同角 66桂 同角)×3

44金 同玉 36桂 同銀成 同玉(463手、図3-4③)

銀を1枚を増やす36手ループの2巡目。



①391手目 先手持駒 歩3  
 後手持駒 金4 銀4 桂4 歩3

②427手目 先手持駒 銀1 歩3  
 後手持駒 金4 銀3 桂4 歩3

③463手目 先手持駒 銀2 歩3  
 後手持駒 金4 銀2 桂4 歩3

④499手目 先手持駒 銀3 歩3  
 後手持駒 金4 銀1 桂4 歩3

・464～499手

(46金 同角 24桂 同角)×4 47銀 46玉 54玉

(44金 同角 66桂 同角)×3

44金 同玉 36桂 同銀成 同玉(499手、図3-4④)

銀を1枚を増やす36手ループの3巡目。

・500～554手

(46金 同角 24桂 同角)×4 47銀 46玉 54玉

(44金 同角 66桂 同角)×3

44金 同玉 56桂 同銀成 36玉

(46金 同角 24桂 同角)×4 46成銀 同玉

54玉 (554手、図3-5)

4巡目ループでは、成銀を残す1往復半(52/55)ループを使う。折り返すことはできないので、王手を稼ぐための最後の悪あがき。

【図3-5】554手目 54玉まで

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
								皇	一
									二
歩	歩	歩	歩	歩	皇			歩	三
				王				角 龍	四
									五
		飛	馬		王				六
歩	歩		歩	歩				歩 歩	七
					香				八
香									九

先手持駒 金4 銀4 桂4 歩3

後手持駒 歩3

・555～570手

(44金 同角 66桂 同角)×3 44金 同香 56玉

64桂(図3-6)まで570手。

・王手率  $0.900 = 513/570$ 。

555手目以降は収束。非王手の1手56玉を挟んで詰み。

【解説】

第1問のDD++の720手解と同様、合駒で金4枚桂4枚を受け渡す連続王手ループが基本手順になります。その絡繰りをつくる序奏部では、必然手に王手を入れて非王手回数を最小28回に押さえています。

図3-3では、金4枚桂4枚の受け渡しに720手解と同様、銀1枚を絡めています。しかも、手番を替

【図3-6】570手目 64桂まで

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
								皇	一
									二
歩	歩	歩	歩	歩				歩	三
			王	皇			角	龍	四
									五
		飛	馬	王					六
歩	歩		歩	歩				歩 歩	七
					香				八
香									九

先手持駒 銀4 桂 歩3

後手持駒 金4 桂2 歩3

えずに一方向的に銀を渡す1往復の手順(100～135手目の19手+17手の36手ループ。34/36)と、手番を替えて銀を渡す1往復半の手順(206～262手目の19手+17手+19手の55手ループ。52/55)を組み合わせ、非王手の無駄手を挟むこと無く、有効手が繋がります。

この手順は一巡すると同一局面に戻るので非王手の無駄手を1回挟む必要がありそうですが、図3-4④の直前、387手目に「43銀 同香」の連続王手を挟むことで同一局面の衝突を免れ、高王手率を稼ぎながら、もう一巡36手ループの銀渡しの手順を3回と55手ループを1回行うことができます。

◆DD++さんの解答 (600手解)

第3問に挑戦されたDD++さんの手順を紹介します。

・初手～90手

76歩 32飛 33角成 52玉 43馬 同玉

77桂 37飛生 38飛 47飛生 31飛成 49飛生

68玉 77角成 同玉 69飛成 41飛成 52玉

61飛成 42玉 71龍 39飛生 81龍 29飛生

91龍 19飛生 48香 33玉 24角 34玉

21龍 79飛生 66玉 76飛生 55玉 66角

46玉 41香 43銀 同玉 23龍 54玉

44金 同角 66桂 同角 44金 同角

66桂 同角 43銀 44玉 14龍 56金

36玉 46金 同角 24桂 同角 46金

同角 24桂 同角 46金 同角 24桂

同角 46金 同玉 34桂 同銀成 54玉

44金 同角 66桂 同角 44金 同角

66桂 同角 44金 同角 66桂 同角



44金 同角 66桂 同角 44成銀 同玉

(90手、図3-7)

41香を42香に替えれば、出題途中図98手目と同一局面。後に「42歩 同香」の無駄手が入る。本手順より8手短い、図に至るまでの非王手回数は出題途中図98手目と同じで31回。

【図 3-7】 DD++氏 600 手解、90 手目

										9	8	7	6	5	4	3	2	1	
																			一
																			二
										歩	歩	歩	歩	歩				歩	三
																			四
																			五
																			六
										歩	歩		歩	歩				歩	七
																			八
										香									九

先手持駒 歩 3  
後手持駒 金 4 銀 4 桂 4 歩 3

・ 91～198手目(以下、手順省略)

36玉 46金 以下、本手順と同様36手ループ×3回

- ・ 199～252手目：55手ループで折り返し。
- ・ 253～361手目：更に36手ループ×3回
- ・ 362～418手目：途中に「42歩 同香」を挟む57手ループで折り返し。
- ・ 419～526手目：36手ループ×3回
- ・ 527～581手目：55手ループで折り返し。
- ・ 581～600手目：収束。最終6手は44金 同角 66桂 同角 56玉 55金まで。

**DD++さん(コメント抜粋、感想)**

- ・ 600手までが限界でした。98手目の局面だというのはヒントなので満たさなくてもいいですよ。まず序がおそらくどこかであと8手分行き掛けの駄賃で稼ぐのでしょうが、見つかりませんでした。77角成に同玉とこちらを通ることで非王手が減ることに気づいた時は行けたと思ったのですが。
- ・ そして同一局面回避用手順。2手中王手1回の順は何パターンかありますが、ロスが大きいので何か別手順があるんだろうなと思いつつ撃沈。
- ・ ラストは手数合わせの都合もあるので上記2点が解決するまでほっといたら結果としてこうな

りました。570手解になるとおそらく47に銀が残ったままのタイミングになるので4枚目の銀を工夫するか、別の収束にするか、なのでしょうね。

・ (570手解発表後の) 感想：  
とても難しかったです。中核部分は2人同じ手順に至ったということはこれが最高効率ということではほぼ間違いなさそう。ただし、私の折り返しの研究不足はともかく、序は私の600手解と作意570手解でだいぶ違う順だったということで、その辺りまだまだ今後の研究の余地はありそうな予感もしますね。

□お疲れさまでした。触れられている中核部分とは36手と55手ループの組み合わせで最大271手+ $\alpha$  (=36手×3回+55手+36手×3回+ $\alpha$ )です。無駄手を1王手+1非王手と割り切れれば、 $\alpha$  = 57手。王手率は $(34 \times 6 + 52 + 53) / (36 \times 6 + 55 + 57) = 309 / 328 = 0.9420 \dots$ に達します。この手順を用いれば、いずれ94%越えも可能でしょう。

□DD++さんの600手解序奏部は、王手を省略(同時に非王手も減らす)する余地がありそうに思います。もし短い解を発見したらご連絡願います。

**■最後に**

解答募集後に手順を考えるという横着な出題でしたが、幸いにも2名様から解答いただくとともに、模範解答らしき短手数解を発見できました。それでも未だ570手解が王手九割詰の最短と確定した訳ではありません。今後は、次のような展開が考えられます。みなさまも是非挑戦ください。

- 1) 王手率毎の最短手数追究(5割, 6割, 7割, 8割)
- 2) 王手九割詰の最短手数追究(560手以下の解)
- 3) 最高王手率の追究(王手率 > 94%)

□特に解答の追加募集はしませんが、王手率追究の情報や本企画に関するご意見・感想などありましたら、下記までお寄せください。

ichi.suizo@gmail.com

謝辞：王手率計算および同一局面確認ツールを作成いただいた鈴木康夫氏に感謝の意を表します。

## 解答募集締切一覧

ネットでのフェアリー詰将棋の解答募集締切一覧です。締切日が早いもの順です。解答先は各々異なりますのでお間違えにないように。

### 12月15日(日)

#### 第57回 WFP 作品展

フェアリー作品 10作 推理将棋 2作

### 1月15日(水)

#### 第58回 WFP 作品展

フェアリー作品 11作

## 企画作品展募集締切一覧 (再掲)

本年12月号(66号)はWFP作品展がお休みとなり、小峰氏多忙のため短コンの開催も難しそうです。という事は、12月号の出題がちょっと寂しいことになるかもしれません。というわけで、急遽、個人作品展を募集します。

### 【条件】

募集：個人作品展

作品内容：自由

題数：自由

出題：2013年12月号(66号)

解答締切：2014年1月15日

解答発表：2014年1月号(67号)

・なお解答宛先は出題者とし、解説は出題者自らお願いします。

募集締切：2013年12月15日(日)

応募時に下記内容をメールにてお送り下さい。(メール宛先 たくぼん)

- ・ 作品展名
- ・ 作品図面 (kifファイル、画像)
- ・ 解答送り先
- ・ 出題稿用 コメント (前書き)

出題稿はこちらで作稿します。応募頂きましたら全て開催します。面白い企画展、シリーズ

物、なんでも結構です。

## 作品募集締切一覧

### 年賀詰作品展

新年に向けての作品を募集します。お正月に解いて頂けるよう12月号に掲載します。

作品は、フェアリー作品、推理将棋とし、ルール、手数、条件は自由とします。

投稿締切：12月15日(日)

投稿先は、

たくぼん(takuji@dokidoki.ne.jp)迄

### あとがき

今月は各担当者も多忙で原稿がやや遅れ気味です。一乗谷酔象氏の「王手が9割」結果稿(詳細版)は次の改訂時に掲載の予定です。手順だけでも知りたい読者の方もいるかもしれないという事で暫定版として20日発行時には掲載しております。

WFP作品展担当者の神無七郎氏も多忙ながら期日までに原稿を送っていただきました。超長編2作や正解者なしの推理将棋等あるなかの作稿ですからこれには頭が下がります。私も何とか20日に発行できるようキーボードを叩いています。寒くなってきましたが、担当者様、読者の皆様、お体には気をつけられますよう……

たくぼん

2013年 第65号

### Web Fairy Paradise

非売品

平成二十五年十一月号

平成二十五年十一月廿日発行

発行所 愛媛県新居浜市

発行兼編集人 須川卓二

発行所 Web Fairy Paradise 編集部

問合先 takuji@dokidoki.ne.jp